



Sun Fire™ B1600 ブレードシステムシャーシ 管理マニュアル

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No. 817-1898-10
2003 年 4 月, Revision A

コメントの宛先: docfeedback@sun.com

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、AnswerBook2、docs.sun.com、Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun Fire B1600 Blade System Chassis Administration Guide Part No: 816-4765-11 Revision A
-----	--



Adobe PostScript

目次

はじめに ix

1. Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシの管理 1-1
 - 1.1 システムコントローラのコマンド行インターフェース 1-2
 - 1.2 スイッチ/システムコントローラへのログインと設定 1-2
 - 1.3 システムコントローラの出荷時のデフォルト設定への復元 1-3

2. システムコントローラの名前付きユーザーの設定 2-1
 - 2.1 はじめてのログインおよび admin パスワードの設定 2-2
 - 2.2 ユーザー自身の名前付きユーザーアカウントの設定 2-2
 - 2.3 ユーザー自身のユーザーパスワードの変更 2-3
 - 2.4 ほかのユーザーの名前付きユーザーアカウントの設定 2-4
 - 2.4.1 ユーザーアカウントの作成 2-4
 - 2.4.2 ほかのユーザーのパスワードの指定または変更 2-5
 - 2.4.3 ユーザーアカウント情報の表示 2-5
 - 2.4.4 システムコントローラのユーザーアカウントの削除 2-6
 - 2.4.5 名前付きユーザーに対するアクセス権の指定 2-6
 - 2.5 現在 SC にログインしているすべてのユーザーのリストの表示 2-8
 - 2.6 システムコントローラのコマンド行インターフェースの終了 2-8

3. コンポーネントの電源投入および電源切断、リセット 3-1

- 3.1 すべてのコンポーネントの電源投入 3-2
- 3.2 アクティブシステムコントローラを除くすべてのコンポーネントの電源切断 3-2
- 3.3 アクティブシステムコントローラを含むすべてのコンポーネントの電源切断 3-4
- 3.4 スイッチ/システムコントローラの電源投入 3-5
- 3.5 スイッチ/システムコントローラの電源切断 3-6
- 3.6 サーバーブレードの電源投入 3-7
- 3.7 サーバーブレードの電源切断 3-8
 - 3.7.1 青色の取り外し可能 LED の手動による点灯 3-10
- 3.8 システムコントローラおよびスイッチ、サーバーブレードのリセット 3-10

- 4. シャーシの監視 4-1
 - 4.1 シリアル接続を介したイベントレポートの受動受信 4-2
 - 4.1.1 telnet 接続のイベントレポートの停止 4-2
 - 4.1.2 イベントレポートが使用可能かどうかの確認 4-3
 - 4.2 システムコントローラおよびサーバーブレードに関連するイベントの表示 4-3
 - 4.2.1 システムコントローラのイベントの表示 4-3
 - 4.2.2 サーバーブレードのイベントの表示 4-4
 - 4.3 イベントの解釈 4-4
 - 4.4 表示するイベント数の制御 4-5
 - 4.4.1 先頭の n 件のイベントの表示 4-5
 - 4.4.2 最新の n 件のイベントの表示 4-5
 - 4.4.3 指定した数でグループ化したイベントの表示 4-6
 - 4.4.4 システムコントローラまたはサーバーブレードのイベントログ全体の表示 4-6
 - 4.5 ブレードから `syslogd` に送信されたイベントレポートの表示 4-6

- 5. サーバーブレードおよびスイッチのコンソールへのアクセス 5-1
 - 5.1 サーバーブレードおよびスイッチのコンソールへのアクセス 5-2

- 5.1.1 別のユーザーのコンソールからの強制ログオフ 5-2
- 5.1.2 読み取り専用アクセス権でのブレードコンソールへのログイン 5-3
- 5.2 スイッチまたはブレードのコンソールからシステムコントローラへの切り替え 5-4
- 5.3 サーバードブレードまたはスイッチのコンソールの履歴の表示 5-4
 - 5.3.1 サーバードブレードまたはスイッチの前回起動時のコンソール情報の表示 5-4
 - 5.3.2 動作中のコンソールバッファの情報の表示 5-6
- 5.4 telnet を使用したサーバードブレードコンソールへの直接アクセス 5-6
- 6. コンポーネントの監視 6-1
 - 6.1 概要 6-2
 - 6.2 システムコントローラの詳細の表示 6-3
 - 6.3 日付および時刻の確認 6-4
 - 6.4 ハードウェアコンポーネントの状態の確認 6-5
 - 6.5 コンポーネント内のオペレーティング環境の確認 6-7
 - 6.5.1 シャーシ全体の確認 6-7
 - 6.5.2 SSC だけの確認 6-7
 - 6.5.3 電源装置だけの確認 6-9
 - 6.5.4 サーバードブレードの確認 6-10
 - 6.5.5 スイッチだけの確認 6-11
 - 6.6 各コンポーネントに格納されているコンポーネントに関する情報の確認 6-12
 - 6.7 ロケータの点灯または消灯 6-14
- 7. スタンバイシステムコントローラのアクティブシステムコントローラへの切り替え 7-1
 - 7.1 システムコントローラの役割の交換 7-2
- 8. サーバードブレードの起動動作の制御 8-1
 - 8.1 概要 8-2

- 8.2 使用可能な起動モード 8-2

- 9. システムコントローラのパスワードを忘れた場合の作業 9-1

- 10. ファームウェアのアップグレード手順 10-1
 - 10.1 概要 10-2
 - 10.2 TFTP サーバーの設定 10-3
 - 10.3 TFTP サーバーへのファームウェアイメージのインストール 10-5
 - 10.4 システムコントローラのファームウェアのアップグレード 10-6
 - 10.4.1 システムコントローラのファームウェアをアップグレードする例 10-8
 - 10.5 ブレードのブレードサポートチップファームウェアのアップグレード 10-9
 - 10.5.1 1 台のブレードのファームウェアをアップグレードする例 10-10
 - 10.5.2 複数のブレードのファームウェアをアップグレードする例 10-11
 - 10.6 サーバードの OpenBoot PROM (OBP) ファームウェアのアップグレード 10-11
 - 10.7 統合スイッチのファームウェアのアップグレード 10-15

- 11. 障害追跡 11-1
 - 11.1 概要 11-2
 - 11.2 問い合わせ前の確認事項 11-2
 - 11.3 サンのサポート技術者に提供する情報の収集 11-3
 - 11.3.1 シャーシ全体に関する情報の収集 11-3
 - 11.3.2 スイッチに関する情報の収集 11-4
 - 11.3.3 Sun Explorer によるサーバードに関する情報の収集 11-5

- 12. オプションのハードウェアコンポーネントの交換 12-1
 - 12.1 新しいブレードの取り付け 12-2
 - 12.1.1 既存のブレードを取り外す前に使用不可にする方法 12-2
 - 12.1.2 既存のブレードまたはフィルターパネルの取り外し 12-2

12.1.3	新しいブレードまたはフィラーパネルの取り付け	12-6
12.1.4	取り付けしたブレードの起動	12-8
12.2	新しい SSC の取り付け	12-9
12.2.1	取り外す SSC を使用不可にする方法	12-9
12.2.2	SSC の取り外し	12-10
12.2.3	新しい SSC の取り付け	12-12
12.3	新しい電源装置の取り付け	12-16
12.3.1	既存の PSU を取り外す前に使用不可にする方法	12-16
12.3.2	既存の PSU の取り外し	12-17
12.3.3	新しい PSU の取り付け	12-20
12.4	新しいシャーシの取り付け	12-23
12.4.1	すべてのコンポーネントの停止	12-23
12.4.2	シャーシのコンポーネントの取り外し	12-24
12.4.3	4 ポストラックからのシステムシャーシの取り外し	12-25
12.4.4	2 ポストラックからのシステムシャーシの取り外し	12-26
12.4.5	ラックへの新しいシステムシャーシの取り付け	12-29
12.4.6	新しいシステムシャーシの取り付け	12-29
12.5	交換用のシャーシまたは SSC のユーザーログインおよびホスト ID 情報	12-30
A.	LED の意味	A-1
A.1	LED の見方	A-2
	索引	索引-1

はじめに

このマニュアルでは、システムコントローラのコマンド行インターフェース (Advanced Lights Out Management ソフトウェア) を使用して、Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシを監視および管理する方法について説明します。また、システムシャーシの各コンポーネントのファームウェアをアップグレードする方法についても説明します。

このマニュアルは、経験のある Solaris システム管理者を対象としています。

お読みになる前に

このマニュアルの手順を実行する前に、ブレードシステムシャーシがラックに取り付けられていて、必要な電源ケーブルおよびネットワークケーブル、シリアルケーブルがすべて接続されていることを確認してください。システムのハードウェアの設置方法については、『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシハードウェア設置マニュアル』を参照してください。

このマニュアルの構成

第 1 章では、システムコントローラソフトウェアの概要について説明します。詳細は、『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシソフトウェア設定マニュアル』を参照してください。また、この章では、システムコントローラを出荷時のデフォルト設定に戻す方法についても説明します。

第 2 章では、システムコントローラの名前付きユーザーを設定する方法について説明します。

第 3 章では、電源を投入および切断する方法とシャーシのコンポーネントをリセットする方法について説明します。

第 4 章では、シャーシのコンポーネントで生成されるイベントメッセージにアクセスする方法について説明します。

第 5 章では、シャーシ内のスイッチおよびサーバブレードのコンソールにアクセスする方法について説明します。

第 6 章では、システムコントローラの監視機能を使用する方法について説明します。

第 7 章では、現在のスタンバイシステムコントローラを、アクティブシステムコントローラに強制的に切り替える方法について説明します。

第 8 章では、システムコントローラを使用して、サーバブレードの起動時の動作を制御する方法について説明します。

第 9 章では、パスワードを忘れた場合にシステムコントローラへのアクセスを回復する方法について説明します。

第 10 章では、SSC およびスイッチ、サーバブレードのファームウェアをアップグレードする方法について説明します。

第 11 章では、シャーシの障害追跡について説明します。

第 12 章では、シャーシのコンポーネントおよびシャーシ全体を交換する方法について説明します。

付録 A では、シャーシの正面および背面にある LED の見方について説明します。

UNIX コマンド

このマニュアルには、UNIX®の基本的なコマンド、およびシステムの停止、システムの起動、デバイスの構成などの基本的な手順の説明は記載されていません。

基本的なコマンドや手順についての説明は、次のマニュアルを参照してください。

- 『Sun 周辺機器 使用の手引き』
- Solaris™ オペレーティング環境についてのオンライン AnswerBook2™

書体と記号について

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	マシン名% su Password:
<i>AaBbCc123</i> またはゴシック	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。 rm ファイル名 と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅をこえる場合に、継続を示します。	% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	マシン名%
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	マシン名#
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
システムコントローラシェル	sc>
統合スイッチシェル	Console#

関連マニュアル

用途	マニュアル名	Part No.
安全に関する注意事項	『Sun Fire B1600 Blade System Chassis Compliance and Safty Manual』 (マルチリンガル版)	816-3364
設置の概要 (折り込みポスター)	『Sun Fire B1600 Blade System Chassis Quick Start Guide』 (英語版)	816-3625
ハードウェアの設置	『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシ ハードウェア設置マニュアル』	817-1904
ソフトウェアの設定	『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシ ソフトウェア設定マニュアル』	817-1888
システムシャーシの管理 およびコンポーネントの 交換	『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシ 管理マニュアル』 (このマニュアル)	817-1898
スイッチの管理	『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシ スイッチ管理マニュアル』	817-1893
最新情報	『Sun Fire B1600 Blade System Chassis Product Notes』 (英語版)	816-4174

Sun のオンラインマニュアル

各言語対応版を含むサンの各種マニュアルは、次の URL から表示または印刷、購入できます。

<http://www.sun.com/documentation>

コメントをお寄せください

弊社では、マニュアルの改善に努力しており、お客様からのコメントおよびご忠告をお受けしております。コメントは下記宛に電子メールでお送りください。

docfeedback@sun.com

電子メールの表題にはマニュアルの Part No. (817-1898-10) を記載してください。

なお、現在日本語によるコメントには対応できませんので、英語で記述してください。

第1章

Sun Fire B1600 ブレードシステム シャーシの管理

この章は、次の節で構成されています。

- 1-2 ページの 1.1 節 「システムコントローラのコマンド行インタフェース」
- 1-2 ページの 1.2 節 「スイッチ/システムコントローラへのログインと設定」
- 1-3 ページの 1.3 節 「システムコントローラの出荷時のデフォルト設定への復元」

1.1 システムコントローラのコマンド行インタフェース

Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシは、ローカルまたは遠隔のシリアル接続、あるいは管理ネットワークポート (NETMGT) への 10/100 Mbps のネットワーク接続を使用して管理します。シリアルコネクタおよび管理ネットワークポートは、スイッチ/システムコントローラ装置の背面パネルにあります。

この管理インタフェースは、Advanced Lights Out Management ソフトウェアと呼ばれます。このソフトウェアを使用すると、次の処理が可能になります。

- シャーシ内の現場交換可能ユニット (FRU) およびそのサブコンポーネントの動作状態を監視します。FRU には、2 台の電源装置 (PSU) および 2 台のスイッチ/システムコントローラ (SSC) 装置、最大 16 台まで取り付けられるサーバーブレードがあります。このソフトウェアでは、各 FRU で発生したイベントのログも記録されます。
- シャーシの制御および設定を実行できます。また、統合スイッチおよびサーバーブレードコンソールのコマンド行インタフェースにアクセスすることもできます。

1.2 スイッチ/システムコントローラへのログインと設定

スイッチ/システムコントローラへのログインと設定方法については、『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシソフトウェア設定マニュアル』を参照してください。

注 – システムコントローラの設定では、`setupsc` コマンドを使用します。このコマンドを実行すると、対話形式の設定処理が開始され、アクティブシステムコントローラおよびスタンバイシステムコントローラの設定を行うことができます。

1.3 システムコントローラの出荷時のデフォルト設定への復元

システムコントローラの設定を出荷時のデフォルト設定に戻すには、`sc>` プロンプトで次のように入力します。

```
sc> setdefaults [-y]
```

`-y` オプションを使用すると、コマンドの実行時に、続行の確認を求めるプロンプトが表示されません。

注 – このコマンドを実行しても、スイッチは出荷時のデフォルト設定に戻りません。スイッチを出荷時のデフォルト設定に戻す方法については、『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシソフトウェア設定マニュアル』を参照してください。

第2章

システムコントローラの名前付きユーザーの設定

システムコントローラは、システムシャーシへのアクセスを管理します。セキュリティ保護のため、システムコントローラの名前付きユーザーを設定し、各ユーザーのアクセスレベルを制御することをお勧めします。この章では、この設定方法について説明します。

この章は、次の節で構成されています。

- 2-2 ページの 2.1 節「はじめてのログインおよび **admin** パスワードの設定」
- 2-2 ページの 2.2 節「ユーザー自身の名前付きユーザーアカウントの設定」
- 2-3 ページの 2.3 節「ユーザー自身のユーザーパスワードの変更」
- 2-4 ページの 2.4 節「ほかのユーザーの名前付きユーザーアカウントの設定」
- 2-8 ページの 2.5 節「現在 SC にログインしているすべてのユーザーのリストの表示」
- 2-8 ページの 2.6 節「システムコントローラのコマンド行インタフェースの終了」

2.1 はじめてのログインおよび admin パスワードの設定

システムコントローラ (SC) の名前付きユーザーは指定することもできますが、デフォルトユーザーは admin に設定されています。はじめて SC にログインするときには、username プロンプトでこのユーザー名を入力する必要があります。ユーザー admin には、デフォルトのパスワードはありません。ただし、ユーザー admin にパスワードを設定しないかぎり、このユーザーでスイッチやサーバーブレードの設定を行ったり、アクセスすることはできません。

パスワードの設定方法については、2-3 ページの 2.3 節「ユーザー自身のユーザーパスワードの変更」を参照してください。

ユーザー admin にパスワードを設定するか、SC の名前付きユーザーを設定すると、telnet またはシリアル接続で SC に接続したときに、次のログインおよびパスワードのプロンプトが表示されます。

```
username:  
password:
```

注 – スイッチ/システムコントローラ (SSC) モジュール内のスイッチには、ユーザーログインおよびパスワードセキュリティのための独自のシステムが備わっています。スイッチへのログイン方法やユーザー名およびパスワードの設定方法については、『Sun Fire B1600 ブレードシステムソフトウェア設定マニュアル』を参照してください。

2.2 ユーザー自身の名前付きユーザーアカウントの設定

この節では、ユーザー自身の名前付きユーザーアカウントの設定方法について説明します。

1. 次のように入力して、ユーザーアカウントを作成します。

```
sc> useradd username
```

`username` には、ログイン名として使用する名前を指定します。ユーザー名に使用できる文字については、2-4 ページの 2.4 節「ほかのユーザーの名前付きユーザーアカウントの設定」を参照してください。

2. ユーザー自身のパスワードを指定します。

パスワードに使用できる文字は、ユーザー名に使用できる文字と同じです (前述の手順 1 を参照)。

3. 次のように入力して、すべてのユーザー権限を取得します。

```
sc> userperm caur
```

アクセス権レベルを表す文字の意味については、2-4 ページの 2.4 節「ほかのユーザーの名前付きユーザーアカウントの設定」を参照してください。

2.3 ユーザー自身のユーザーパスワードの変更

注 - 名前付きユーザーアカウントを持つすべての SC ユーザーは、自分自身のパスワードを変更できます。

パスワードの指定には、いくつかのルールがあります。u レベルの権限が付与されている場合は、このルールは適用されないため、パスワードに空の文字列を指定することもできます。パスワードに空の文字列を指定すると、ログイン時にパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されません。

u レベルの権限が付与されていない場合は、指定するパスワードは次の条件を満たす必要があります。

- 大文字または小文字の英字で始まり、2 文字以上の大文字または小文字の英字を含むこと
- 6 ~ 8 文字であること
- 1 文字以上の数字またはピリオド (.)、下線 (_)、ハイフン (-) を含むこと
- ユーザーのログイン名またはそれを逆順に並べた名前、前後をつなげて並べ変えた名前ではないこと (ログイン名が `roger` の場合、`ogerr` および `gerro`、`errog`、`rroge` はすべて禁止)

1. 現在ログインしているアカウントのパスワードを変更するには、次のように入力します。

```
sc> password
Enter current password: *****
Enter new password: *****
Enter new password again: *****
```

2. プロンプトが表示されたら、現在のパスワードを指定します。
3. プロンプトが表示されたら、使用する新しいパスワードを指定します。
4. 新しいパスワードを再度入力して、確認します。

2.4 ほかのユーザーの名前付きユーザーアカウントの設定

注 - ユーザーを追加するには、ユーザー管理権限 (u レベル) が必要です (2-2 ページの 2.2 節「ユーザー自身の名前付きユーザーアカウントの設定」を参照)。これまでにユーザーを追加したことがない場合は、デフォルトで、u レベルおよびその他のレベルの権限がすべてユーザーに付与されます。

2.4.1 ユーザーアカウントの作成

- 次のように入力します。

```
sc> useradd username
```

username には、英字で始まる最大 8 文字の長さの文字列を指定します。文字列には、英小文字を 1 文字以上含めます。また、英字以外に数字およびピリオド (.)、下線 (_)、ハイフン (-) を自由に組み合わせて使用できます。

2.4.2 ほかのユーザーのパスワードの指定または変更

注 – ユーザーのパスワードを設定するには、ユーザー管理権限 (u レベル) が必要です (2-2 ページの 2.2 節「ユーザー自身の名前付きユーザーアカウントの設定」を参照)。

- 次のように入力します。

```
sc> userpassword username
```

username には、設定済みのユーザーアカウントの名前を指定します。

このコマンドを使用するときには、2-3 ページの 2.3 節「ユーザー自身のユーザーパスワードの変更」のパスワードの指定に関するルールは適用されません。パスワードには、空の文字列または 8 文字までの文字列を指定できます。空の文字列を指定する (ユーザーのパスワードの指定を求められたときに ENTER キーを押す) と、ユーザーがログインするときにパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されません。その代わりに、ユーザー名を入力するとすぐに `sc>` プロンプトが表示されます。

2.4.3 ユーザーアカウント情報の表示

注 – SC のユーザーアカウント情報を表示するには、ユーザー管理権限 (u レベル) が必要です (2-2 ページの 2.2 節「ユーザー自身の名前付きユーザーアカウントの設定」を参照)。

- 次のように入力します。

```
sc> usershow username
```

username には、SC の既存のユーザーアカウントの名前を指定します。作成済みのユーザーアカウントのリストを表示し、各ユーザーのアクセス権を確認する場合は、`usershow` コマンドだけを入力します。

```
sc> usershow
User name      Permissions    Password?
-----
psmith         aucr           Assigned
awetherby     --cr           None
sperkins      ---r           Assigned
sc>
```

それぞれのアクセス権レベルを表す文字の意味については、2-2 ページの 2.2 節「ユーザー自身の名前付きユーザーアカウントの設定」を参照してください。

2.4.4 システムコントローラのユーザーアカウントの削除

注 – ユーザーアカウントを削除するには、ユーザー管理権限 (u レベル) が必要です (2-4 ページの 2.4 節「ほかのユーザーの名前付きユーザーアカウントの設定」を参照)。削除したユーザーアカウントは復元できないので、注意してください。

- 次のように入力します。

```
sc> userdel username
```

username には、SC の既存のユーザーアカウントの名前を指定します。

2.4.5 名前付きユーザーに対するアクセス権の指定

注 – ユーザーアカウントのアクセス権レベルを指定または変更するには、ユーザー管理権限 (u レベル) が必要です。

デフォルトでは、設定したすべての名前付きユーザーに 4 つのレベルすべての権限が付与されます。

- ユーザーの権限を特定のレベルに制限するには、次のように入力します。

```
sc> userperm username [c][u][a][r]
```

次のように指定できます。

- **パラメタなし**
名前付きユーザーには、4 つのレベルすべての権限が付与されます。
- **4 つのパラメタをすべて指定** (たとえば、`sc> userperm cuar` と指定)
この場合も、名前付きユーザーには、4 つのレベルすべての権限が付与されます。
- **1 ~ 3 つのパラメタを指定**
名前付きユーザーには、指定したパラメタの権限だけが付与されます。

パラメタの意味は、次のとおりです。

- **c**
「コンソール権限」を表します。この権限では、サーバーブレードまたは統合スイッチのコンソールにアクセスすることができます。
- **u**
「ユーザー管理権限」を表します。この権限では、ユーザーの追加および削除、`userperm` コマンドによるアクセス権レベルの変更を行うことができます。
- **a**
「管理者権限」を表します。この権限では、SC の構成変数を変更することができます。
- **r**
「リセット権限」を表します。この権限では、SC およびスイッチ、ブレードをリセットしたり、これらの電源を投入および切断することができます。

2.5 現在 SC にログインしているすべてのユーザーのリストの表示

- 現在 SC にログインしているユーザーのリストを表示するには、次のように入力します。

```
sc> showusers
user name   connection  login time   client IP addr  console
-----
psmith      serial      Jan 16 10:30
sperkins    net-3       Jan 14 17:24 172.16.100.56  system
rnixon      net-2       Jan 15 12:55 192.168.45.77
sc>
```

上記の例で、「console」の見出しの下の「system」は、現在、ユーザー sperkins がサーバブレードコンソールに対する書き込みアクセス権を持っていることを示します。どのブレードかは特定されません。

サーバブレードコンソールに書き込みアクセスできるのは、一度に1人のユーザーだけです。それ以外のユーザーには、同じコンソールに対して読み取り専用のアクセス権が付与されます。つまり、コンソール上のすべての動作を参照できますが、コマンドの実行による介入はできません。

2.6 システムコントローラのコマンド行インタフェースの終了

- 次のように入力します。

```
sc> logout
```

このコマンドによって、SC のログインプロンプトに戻ります。

第3章

コンポーネントの電源投入および電源切断、リセット

この章は、次の節で構成されています。

- 3-2 ページの 3.1 節「すべてのコンポーネントの電源投入」
- 3-2 ページの 3.2 節「アクティブシステムコントローラを除くすべてのコンポーネントの電源切断」
- 3-4 ページの 3.3 節「アクティブシステムコントローラを含むすべてのコンポーネントの電源切断」
- 3-5 ページの 3.4 節「スイッチ/システムコントローラの電源投入」
- 3-6 ページの 3.5 節「スイッチ/システムコントローラの電源切断」
- 3-7 ページの 3.6 節「サーバーブレードの電源投入」
- 3-8 ページの 3.7 節「サーバーブレードの電源切断」
- 3-10 ページの 3.8 節「システムコントローラおよびスイッチ、サーバーブレードのリセット」

3.1 すべてのコンポーネントの電源投入

注 – poweron コマンドおよび poweroff コマンドを使用するには、システムコントローラの r レベルのユーザー権限が必要です。システムコントローラのユーザー権限のレベルについては、第 2 章を参照してください。

- 電源停止または取り外し可能、スタンバイ電力の各状態にあるすべてのコンポーネントの電源を一度に入れるには、次のように入力します。

```
sc> poweron ch
```

3.2 アクティブシステムコントローラを除くすべてのコンポーネントの電源切断

アクティブシステムコントローラを除くすべてのコンポーネントの電源は、一度に切断する (停止して取り外し可能またはスタンバイの状態にする) ことができます。ブレードシステムシャーシは、アクティブシステムコントローラの電源を 1 回のコマンドで切断または停止できないように設計されています。アクティブシステムコントローラを含むすべてのコンポーネントの電源を正しく切る手順については、3-4 ページの 3.3 節「アクティブシステムコントローラを含むすべてのコンポーネントの電源切断」を参照してください。



注意 – スイッチが起動されてからスイッチの設定を変更し、その変更を保持する場合は、この節で説明するコマンドを実行する前に、スイッチ設定の変更を必ず保存してください。スイッチ設定を保存する手順については、『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシソフトウェア設定マニュアル』を参照してください

注 – poweron コマンドおよび poweroff コマンドを使用するには、システムコントローラの r レベルのユーザー権限が必要です。システムコントローラのユーザー権限のレベルについては、第 2 章を参照してください。

表 3-1 に、アクティブシステムコントローラを除く、シャーシ内のすべてのコンポーネントの電源を切断または停止するためのコマンドを示します。

コマンドにオプションがある場合は、コマンド行で複数のオプションを指定できません。ただし、`poweroff` コマンドの `-s` オプションと `-r` オプションは、論理的に互換性がありません。このため、これらのオプションを同じコマンド行で指定することはできません。

表 3-1 SSC の電源を切断または停止するためのコマンド

コマンドおよびオプション (ある場合)	コマンドの説明
<code>sc> poweroff ch</code>	アクティブシステムコントローラを除く、シャーシのすべてのコンポーネントの電源を切ります。
<code>sc> poweroff -f ch</code>	コンポーネントのオペレーティングシステムが正常に停止できなかった場合でも、アクティブシステムコントローラを除くすべてのコンポーネントの電源を切ります。
<code>sc> poweroff -y ch</code>	確認のプロンプトを表示せずに、アクティブシステムコントローラを除くすべてのコンポーネントの電源を切ります。
<code>sc> poweroff -s ch</code>	アクティブシステムコントローラを除くすべてのコンポーネントの電源を停止して、スタンバイモードにします (<code>standbyfru ch</code> コマンドと同じ機能)。
<code>sc> poweroff -r ch</code>	アクティブシステムコントローラを除くすべてのコンポーネントを停止して、安全に取り外せる状態にします。 <code>-r</code> オプションを指定することで、各コンポーネントの取り外し可能 LED も点灯します (<code>removefru ch</code> コマンドと同じ機能)。
<code>sc> standbyfru ch</code>	アクティブシステムコントローラを除くすべてのコンポーネントの電源を停止して、スタンバイモードにします (<code>poweroff -s ch</code> コマンドと同じ機能)。
<code>sc> standbyfru -f ch</code>	コンポーネントのオペレーティングシステムが正常に停止できなかった場合でも、アクティブシステムコントローラを除くすべてのコンポーネントの電源を停止して、スタンバイモードにします。
<code>sc> standbyfru -y ch</code>	確認のプロンプトを表示せずに、アクティブシステムコントローラを除くすべてのコンポーネントの電源を停止して、スタンバイモードにします。
<code>sc> removefru ch</code>	アクティブシステムコントローラを除くすべてのコンポーネントの電源を停止して、安全に取り外せる状態にします。このコマンドを実行すると、各コンポーネントの取り外し可能 LED も点灯します (<code>poweroff -r ch</code> コマンドと同じ機能)。

表 3-1 SSC の電源を切断または停止するためのコマンド (続き)

コマンドおよびオプション (ある場合)	コマンドの説明
<code>sc> removefru -f ch</code>	システムコントローラオペレーティングシステムが正常に停止できなかった場合でも、アクティブシステムコントローラを除くすべてのコンポーネントの電源を停止して、安全に取り外せる状態にします。このコマンドを実行すると、各コンポーネントの取り外し可能 LED も点灯します。

3.3 アクティブシステムコントローラを含むすべてのコンポーネントの電源切断

1 回のコマンドで、アクティブシステムコントローラの電源を切断または停止することはできません。アクティブシステムコントローラの電源を停止して、取り外し可能な状態にするには、次の手順を実行します。

1. アクティブシステムコントローラを除くすべてのコンポーネントの電源を切ります。次のように入力します。

```
sc> poweroff ch
```

2. アクティブシステムコントローラを除くすべてのコンポーネントを、取り外し可能な状態にします。次のように入力します。

```
sc> removefru ch
```

3. アクティブシステムコントローラを取り外し可能な状態にします。次のように入力します。

```
sc> removefru sscn
```

n には、アクティブシステムコントローラが SSC0 または SSC1 のどちらにあるかに応じて 0 または 1 を指定します。

注 – アクティブシステムコントローラに対して `removefru` コマンドを使用できるのは、ほかのすべてのコンポーネントが取り外し可能な状態になっている場合だけです。

4. SSC モジュールから電源コードを取り外します。

電源コードを取り外さないかぎり、SSC モジュールの電源は実際には停止しません。

3.4 スイッチ/システムコントローラの電源投入

シャーシの電源を入れると、SSC の電源も入ります。ただし、何らかの理由でいずれかの SSC の電源を切断または停止した場合には、`poweron` コマンドを使用して再起動する必要があります。この節では、その方法について説明します。

注 – スイッチ/システムコントローラ (SSC) の電源を入れるには、システムコントローラの `r` レベルのユーザー権限が必要です。使用可能なユーザー権限のレベルについては、第 2 章を参照してください。

- 1 台のスイッチ/システムコントローラの電源を入れるには、次のように入力します。

```
sc> poweron sscn
```

n には、SSC0 または SSC1 のどちらのシステムコントローラの電源を入れるかによって 0 または 1 を指定します。

3.5 スイッチ/システムコントローラの電源切断



注意 – スイッチが起動されてからスイッチの設定を変更し、その変更を保持する場合は、この節で説明するコマンドを実行する前に、スイッチ設定の変更を必ず保存してください。スイッチ設定を保存する手順については、『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシソフトウェア設定マニュアル』を参照してください。

注 – スイッチ/システムコントローラの電源を切るには、システムコントローラの `r` レベルのユーザー権限が必要です。使用可能なユーザー権限のレベルについては、第 2 章を参照してください。

表 3-2 に、SSC の電源を切断または停止するための各種コマンドを示します。

注 – 電源の切断または停止ができるのは、スタンバイシステムコントローラだけです。アクティブシステムコントローラの電源を停止する方法については、3-4 ページの 3.3 節「アクティブシステムコントローラを含むすべてのコンポーネントの電源切断」を参照してください。

コマンドにオプションがある場合は、コマンド行で複数のオプションを指定できます。ただし、`poweroff` コマンドの `-s` オプションと `-r` オプションは、論理的に互換性がありません。このため、これらのオプションを同じコマンド行で指定することはできません。

表 3-2 SSC の電源を切断または停止するためのコマンド

コマンドおよびオプション (ある場合)	コマンドの説明
<code>sc> poweroff sscn</code>	SSC n の電源を切ります。 n には、スタンバイシステムコントローラが SSC0 または SSC1 のどちらにあるかに応じて 0 または 1 を指定します。
<code>sc> poweroff -f sscn</code>	システムコントローラのオペレーティングシステムが正常に停止できなかった場合でも、スタンバイシステムコントローラ (SSC0 または SSC1) の電源を切ります。
<code>sc> poweroff -y sscn</code>	確認のプロンプトを表示せずに、スタンバイシステムコントローラ (SSC0 または SSC1) の電源を切ります。

表 3-2 SSC の電源を切断または停止するためのコマンド (続き)

コマンドおよびオプション (ある場合)	コマンドの説明
<code>sc> poweroff -s ssc<i>n</i></code>	スタンバイシステムコントローラ (SSC0 または SSC1) の電源を停止して、スタンバイ電力モードにします (<code>standbyfru</code> コマンドと同じ機能)。
<code>sc> poweroff -r ssc<i>n</i></code>	スタンバイシステムコントローラの電源を停止して、安全に取り外せる状態にします。-r オプションを指定することで、取り外し可能 LED も点灯します (<code>removefru</code> コマンドと同じ機能)。
<code>sc> standbyfru ssc<i>n</i></code>	スタンバイシステムコントローラの電源を停止して、スタンバイ電力モードにします (<code>poweroff -s</code> コマンドと同じ機能)。
<code>sc> standbyfru -f ssc<i>n</i></code>	オペレーティングシステムが正常に停止できなかった場合でも、スタンバイシステムコントローラの電源を停止して、スタンバイ電力モードにします。
<code>sc> standbyfru -y ssc<i>n</i></code>	確認のプロンプトを表示せずに、スタンバイシステムコントローラの電源を停止して、スタンバイ電力モードにします。
<code>sc> removefru ssc<i>n</i></code>	スタンバイシステムコントローラの電源を停止して、安全に取り外せる状態にします。このコマンドを実行すると、SSC の背面パネルにある取り外し可能 LED も点灯します (<code>poweroff -r</code> コマンドと同じ機能)。
<code>sc> removefru -f ssc<i>n</i></code>	システムコントローラのオペレーティングシステムが正常に停止できなかった場合でも、スタンバイシステムコントローラの電源を停止して、安全に取り外せる状態にします。このコマンドを実行すると、SSC の背面パネルにある取り外し可能 LED も点灯します。
<code>sc> removefru -y ssc<i>n</i></code>	確認のプロンプトを表示せずに、スタンバイシステムコントローラの電源を停止して、安全に取り外せる状態にします。このコマンドを実行すると、SSC の背面パネルにある取り外し可能 LED も点灯します。

3.6

サーバブレードの電源投入

注 - サーバブレードの電源を入れるには、`r` レベルのユーザー権限が必要です。使用可能なユーザー権限のレベルについては、第 2 章を参照してください。

- 1 台のサーバブレードの電源を入れるには、次のように入力します。

```
sc> poweron sn
```

n には、電源を入れるサーバブレードが挿入されているスロット番号を指定します。

- 複数のサーバブレードの電源を入れるには、次のように、各ブレードを空白文字で区切って指定します。

```
sc> poweron s1 s6 s11
```

3.7 サーバブレードの電源切断

注 – サーバブレードの電源を切るには、*r* レベルのユーザー権限が必要です。システムコントローラのユーザー権限のレベルについては、第 2 章を参照してください。

表 3-3 に、サーバブレードの電源を切断または停止するためのコマンドを示します。複数のサーバブレードに対してコマンドを実行する場合は、サーバブレードを空白文字で区切って指定します。たとえば、スロット 1 および 3、15 のブレードの電源を切る場合は、次のように入力します。

```
sc> poweroff s1 s3 s15
```

コマンド行には複数のオプションを指定できます。ただし、`poweroff` コマンドの `-s` オプションと `-r` オプションは、論理的に互換性がありません。このため、これらのオプションを同じコマンド行で指定することはできません。

注 – 表 3-3 に示すコマンドを実行すると、ブレードのオペレーティングシステムが停止してから、ブレード自体の電源が停止します。

表 3-3 サーバブレードの電源を切断または停止するためのコマンド

コマンドおよびオプション (ある場合)	コマンドの説明
sc> poweroff <i>sn</i>	スロット <i>n</i> のブレードの電源を切ります。
sc> poweroff -f <i>sn</i>	ブレードのオペレーティングシステムが正常に停止できなかった場合でも、スロット <i>n</i> のブレードの電源を切ります。
sc> poweroff -y <i>sn</i>	確認のプロンプトを表示せずに、スロット <i>n</i> のブレードの電源を切ります。
sc> poweroff -s <i>sn</i>	スロット <i>n</i> のブレードの電源を停止して、スタンバイモードにします (standbyfru コマンドと同じ機能)。
sc> poweroff -r <i>sn</i>	スロット <i>n</i> のブレードの電源を停止して、安全に取り外せる状態にします。-r オプションを指定することで、ブレードの正面にある青色の取り外し可能 LED も点灯します (removefru コマンドと同じ機能)。
sc> standbyfru <i>sn</i>	スロット <i>n</i> のブレードの電源を停止して、スタンバイモードにします (poweroff -s コマンドと同じ機能)。
sc> standbyfru -f <i>sn</i>	ブレードのオペレーティングシステムが正常に停止できなかった場合でも、スロット <i>n</i> のブレードの電源を停止して、スタンバイモードにします。
sc> standbyfru -y <i>sn</i>	確認のプロンプトを表示せずに、スロット <i>n</i> のブレードの電源を停止して、スタンバイモードにします。
sc> removefru <i>sn</i>	スロット <i>n</i> のブレードの電源を停止して、安全に取り外せる状態にします。このコマンドを実行すると、ブレードの正面にある青色の取り外し可能 LED も点灯します (poweroff -r コマンドと同じ機能)。
sc> removefru -f <i>sn</i>	スロット <i>n</i> のブレードの電源を停止して、安全に取り外せる状態にします。このコマンドは、ブレードのオペレーティングシステムが正常に停止できなかった場合でも、電源を停止します。このコマンドを実行すると、ブレードの正面にある青色の取り外し可能 LED も点灯します。
sc> removefru -y <i>sn</i>	確認のプロンプトを表示せずに、スロット <i>n</i> のブレードの電源を停止して、安全に取り外せる状態にします。このコマンドを使用すると、ブレードの正面にある青色の取り外し可能 LED も点灯します。

3.7.1 青色の取り外し可能 LED の手動による点灯

電源を停止したサーバーブレードを取り外す場合は、そのサーバーブレードに対して `removefru` コマンドを実行します。これにより、青色の取り外し可能 LED が点灯するため、シャーシで取り外しを行うときに、対象のブレードを簡単に識別できます。たとえば、電源を停止したスロット 3 のブレードの LED を点灯させる場合は、次のように入力します。

```
sc> removefru s3
Are you sure you want to power off FRU S3 (y/n)? : y
FRU S3 is already powered off
Sep 17 13:14:49: bem: MINOR: S3: OK to Remove LED state changed to
ON on FRU S3
```

3.8 システムコントローラおよびスイッチ、サーバーブレードのリセット

表 3-4 に、ブレードシステムシャーシのコンポーネントをリセットするためのコマンドを示します。

システムコントローラに新しいファームウェアをインストールする場合 (第 10 章を参照) は、インストール後にシステムコントローラをリセットする必要があります。

注 – ブレードシステムシャーシのコンポーネントをリセットするには、システムコントローラの `r` レベルのユーザー権限が必要です。使用可能なユーザー権限のレベルについては、第 2 章を参照してください。

表 3-4 システムシャーシのコンポーネントをリセットするためのコマンド

コマンドおよびオプション (ある場合)	コマンドの説明
<code>sc> reset sn</code>	スロット <i>n</i> のサーバーブレードをリセットします。
<code>sc> reset sn sy</code>	スロット <i>n</i> および <i>y</i> のサーバーブレードをリセットします。リセットするブレードを空白文字で区切って指定します。
<code>sc> reset -y sn</code>	確認のプロンプトを表示せずに、スロット <i>n</i> のブレードをリセットします。

表 3-4 システムシャーシのコンポーネントをリセットするためのコマンド (続き)

コマンドおよびオプション (ある場合)	コマンドの説明
sc> reset -x sn	スロット <i>n</i> のブレードの外部強制リセットを実行します。
sc> reset sscn/swt	SSC <i>n</i> のスイッチをリセットします。 <i>n</i> には、0 または 1 を指定します。
sc> reset -y sscn/swt	確認のプロンプトを表示せずに、SSC <i>n</i> のスイッチをリセットします。
sc> reset -x sscn/swt	SSC <i>n</i> のスイッチの外部強制リセットを実行します。
sc> resetsc	システムコントローラをリセットします。このリセットは、どちらのスイッチにも影響を与えません。このコマンドを使用してシステムコントローラをリセットすると、ユーザーセッションが失われます。
sc> resetsc -y	確認のプロンプトを表示せずに、システムコントローラをリセットします。
sc> reset sscn/sc	スタンバイシステムコントローラをリセットします。 <i>n</i> には、スタンバイシステムコントローラが SSC0 または SSC1 のどちらにあるか応じて、0 または 1 を指定します。
sc> reset -f sscn/sc	オペレーティングシステムが正常に停止できなかった場合でも、スタンバイシステムコントローラを強制的にリセットします。 <i>n</i> には、スタンバイシステムコントローラが SSC0 または SSC1 のどちらにあるか応じて、0 または 1 を指定します。このコマンドを実行すると、同じ SSC 装置内のスイッチもリセットされます。
sc> break sn	Solaris が動作していて、break コマンドによって終了するように設定されている場合は、このコマンドを実行すると、Solaris の起動モードに応じて Solaris ブレードが Solaris から kadb または OBP のいずれかに戻ります。
sc> break -y sn	前述のコマンドと同じ機能ですが、-y オプションを指定することで、break コマンドの実行を確認するプロンプトが表示されません。
sc> break sn sy sx	前述のコマンドと同じ機能ですが、このコマンドの対象は、ブレード <i>n</i> 、 <i>y</i> および <i>x</i> になります。

第4章

シャーシの監視

この章は、次の節で構成されています。

- 4-2 ページの 4.1 節「シリアル接続を介したイベントレポートの受動受信」
- 4-3 ページの 4.2 節「システムコントローラおよびサーバブレードに関連するイベントの表示」
- 4-4 ページの 4.3 節「イベントの解釈」
- 4-5 ページの 4.4 節「表示するイベント数の制御」
- 4-6 ページの 4.5 節「ブレードから `syslogd` に送信されたイベントレポートの表示」

4.1 シリアル接続を介したイベントレポートの受動受信

デフォルトでは、システムコントローラのログファイルに書き込まれるすべてのイベントは、シリアルインタフェースにも転送されます。このため、SSC0 または SSC1 のいずれかのシリアルポートに端末を接続すると、報告されるすべてのイベントを確認できます。

4.1.1 telnet 接続のイベントレポートの停止

telnet セッションで、システムコントローラからイベントが報告されないようにする場合は、イベントレポート機能を停止します。

注 – シリアルインタフェースでは、イベントレポートを使用不可にすることはできません。

SC への telnet 接続でイベントレポートを停止するには、次の手順を実行します。

1. 次のように入力します。

```
sc> setupsc
```

2. システムコントローラのパラメタを設定するかどうかの質問が表示されるまで、各質問に対して Enter キーを押します。

パラメタを設定するかどうかの質問には、y と回答します。

3. CLI イベントレポートが使用不可になっている場合は、使用可能にするかどうかの質問が表示されます。

使用可能になっている場合は、使用不可にするかどうかの質問が表示されます。これは、telnet 接続のイベントレポートだけに影響します。シリアル接続では、イベントが報告されないようにすることはできません。

状況に応じて y または n と回答します。

4.1.2 イベントレポートが使用可能かどうかの確認

- イベントレポート (telnet 接続のみ) が使用可能かどうかを確認するには、showsc コマンドを使用します。

```
sc> showsc
:
The CLI prompt is set as:                sc>                sc>
Event Reporting via telnet interface:    Enabled            Enabled
The CLI event level is set as:          CRITICAL           CRITICAL
:
sc>
```

sc> プロンプトの上下の「:」記号は、データが省略されていることを示しています。

4.2 システムコントローラおよびサーバーブレードに関連するイベントの表示

showlogs コマンドを実行すると、特定のサーバーブレードまたは特定のシステムコントローラに関連するイベントを表示できます。

スイッチに関連するイベントを表示する方法については、『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシスイッチ管理マニュアル』(817-1893-XX)を参照してください。

注 - 4つのレベルのいずれかのユーザー権限を持つユーザーは、showlogs コマンドを使用してイベントログを表示できます。使用可能な権限のレベルについては、第2章を参照してください。

4.2.1 システムコントローラのイベントの表示

- 次のように入力します。

```
sc> showlogs ssc//
```

n には、イベントを表示するシステムコントローラの番号 (0 または 1) を指定します。

両方のシステムコントローラに関連するイベントを表示することもできます。この場合は、次のように入力します。

```
lom> showlogs ssc0 ssc1
```

4.2.2 サーバースロットのイベントの表示

- 次のように入力します。

```
sc> showlogs sn
```

n には、イベントを表示するサーバースロットの番号を指定します。

複数のサーバースロットに関連するイベントを表示することもできます。この場合は、対象スロットを空白文字で区切って指定します。

たとえば、スロット 4 および 9、13 のサーバースロットに関連するイベントを表示する場合は、次のように入力します。

```
sc> showlogs s4 s9 s13
```

注 - showlogs コマンドを使用すると、イベントが古い順に表示されます。各イベントには、タイムスタンプが表示されます。ただし、電源を切ってからシステムコントローラまたはスロットをリセットした場合、タイムスタンプは最後にリセットしてからの日数および時間数、分数を示します。

4.3 イベントの解釈

イベントには、次の 4 つのレベルがあります。

- **CRITICAL**

システムシャーシのコンポーネントの動作に直接的な影響を与えるイベントに関するメッセージです。たとえば、温度しきい値の超過、電源供給経路の障害などがあります。

- MAJOR
ファンの速度が遅すぎたり、障害 LED が点灯するなど、比較的重要度の低いイベントに関するメッセージです。
- MINOR
緊急を要しないイベントに関するメッセージです。
- INFO
多くの場合は、問題が解決されたこと (現在は異常がないこと) を通知するためのイベントです。

4.4 表示するイベント数の制御

シャーシ全体のイベントログは、アクティブな SSC のシステムコントローラによって保持されます。イベントは、シャーシにはじめて電源を入れた時点から格納されます。イベントを格納するバッファがいっぱいになると、バッファの先頭にあるイベント (記録時期のもっとも古いイベント) から上書きされます。

デフォルトでは、`showlogs` コマンドを使用すると、指定したシステムコントローラまたはサーバーブレードに関連する最後から 20 行のイベントログが表示されます。ただし、表示する最新のイベント数を 20 行から変更したり、特定のイベント数をログファイルの先頭から数えて表示したり、指定した数のイベントをグループ化して表示することもできます。これらの処理については、この節を参照してください。

4.4.1 先頭の n 件のイベントの表示

`-b` オプションを使用すると、指定した SC またはブレードに関連するログのイベントのうち、特定の数のもっとも古いイベントを表示できます。

`-b` オプションのあとに空白文字を入力し、続けて表示するイベント数を入力します。たとえば、スロット 7 のサーバーブレードに関連する先頭の 15 件のイベントを表示する場合は、次のように入力します。

```
sc> showlogs -b 15 s7
```

4.4.2 最新の n 件のイベントの表示

`-e` オプションを使用すると、指定した SC またはブレードに関連するログのイベントのうち、特定の数の最新のイベントを表示できます。

-e オプションのあとに空白文字を入力し、続けて表示するイベント数を入力します。たとえば、スロット 7 のサーバブレードに関連する最新の 15 件のイベントを表示する場合は、次のように入力します。

```
sc> showlogs -e 15 s7
```

4.4.3 指定した数でグループ化したイベントの表示

-g オプションを使用すると、イベントを指定した数でグループ化して表示できます。たとえば、SSC0 のシステムコントローラに関連するイベントを、10 件ずつグループ化して表示する場合は、次のように入力します。

```
sc> showlogs -g 10 ssc0
```

注 - 1 つのグループのイベントメッセージを読み終わったら、任意のキーを押して次のグループを表示します。

4.4.4 システムコントローラまたはサーバブレードのイベントログ全体の表示

システムコントローラまたはサーバブレードのイベントログ全体を表示するには、-v オプションを使用します。たとえば、SSC0 のシステムコントローラに関連するイベントを表示するには、次のように入力します。

```
sc> showlogs -v ssc0
```

4.5 ブレードから syslogd に送信されたイベントレポートの表示

サーバブレードには、ブレードサポートチップ (BSC) と呼ばれるプロセッサが組み込まれています。このプロセッサは、サーバブレードの電源が停止したときでも、そのファンおよび電源供給経路の温度と状態を監視します。障害を検出すると、ブ

レードの正面パネルの障害 LED が点灯し、シャーシのアクティブシステムコントローラにレポートを送信します。Solaris が動作している場合は、BSC は syslogd にもイベントレポートを送信します。syslogd では、設定された方法でイベントレポートが処理されます。デフォルトでは、イベントレポートはコンソールに送信され、次のファイルに格納されます。

`/var/adm/messages`

このファイルのレポートは、そのレポートが BSC レポートであることを示すラベルと、その重要度が警告または通知であることを示すラベルを付けて表示されます。

第5章

サーバーブレードおよびスイッチの コンソールへのアクセス

この章は、次の節で構成されています。

- 5-2 ページの 5.1 節「サーバーブレードおよびスイッチのコンソールへのアクセス」
- 5-4 ページの 5.2 節「スイッチまたはブレードのコンソールからシステムコントローラへの切り替え」
- 5-4 ページの 5.3 節「サーバーブレードまたはスイッチのコンソールの履歴の表示」
- 5-6 ページの 5.4 節「telnet を使用したサーバーブレードコンソールへの直接アクセス」

注 – スイッチまたはブレードのコンソールでは、**#** を入力して、アクティブシステムコントローラの `sc>` プロンプトに切り替えます。

5.1 サーバードレードおよびスイッチのコンソールへのアクセス

注 – サーバードレードまたはスイッチのコンソールにアクセスするには、システムコントローラの c レベルのユーザー権限が必要です。使用可能なユーザー権限については、第 2 章を参照してください。

- サーバードレードのコンソールにアクセスするには、システムコントローラの `sc>` プロンプトで次のように入力します。

```
sc> console sn
```

`n` には、ログインするサーバードレードが挿入されているスロット番号を指定します。

- スwitchのコンソールにアクセスするには、次のように入力します。

```
sc> console sscn/swt
```

`n` には、コンソールにアクセスするスitchが `SSC0` または `SSC1` のどちらにあるかによって、`0` または `1` を指定します。

注 – 接続したブレードコンソールが、書き込みアクセス権を持つ別のユーザーによってすでに使用されている場合、この接続は「入力不可」の接続になります。この接続では、コンソールの動作を表示できますが、コマンドを入力して変更を加えることはできません。ほかのユーザーを強制的にコンソールからログオフさせて書き込みアクセス権を取得する方法については、5-2 ページの 5.1.1 節「別のユーザーのコンソールからの強制ログオフ」を参照してください。

5.1.1 別のユーザーのコンソールからの強制ログオフ

システムコントローラの c レベルの権限を持つすべてのユーザーは、ブレードまたはスitchのコンソールにアクセスできます。ただし、ログインするサーバードレードのコンソールに別のユーザーがログインしている場合は、そのユーザーを強制的にログオフさせて自分自身がログインすることができます。

注 – サーバブレードのコンソールにログインできる c レベルの権限を持つユーザーの数は制限されません。ただし、書き込みアクセス権を持つユーザーは常に 1 人だけで、残りのユーザーのアクセス権は読み取り専用です。書き込みアクセス権を持たないユーザーはコンソールの動作を監視できますが、コマンドは実行できません。

- ブレードコンソールに強制的にログインして、現在のユーザーから書き込みアクセス権を取得するには、次のように入力します。

```
sc> console -f sn
```

n には、ログインするサーバブレードが挿入されているスロット番号を指定します。

- スイッチコンソールに強制的にログインして、現在のユーザーから書き込みアクセス権を取得するには、次のように入力します。

```
sc> console -f sscn/swt
```

n には、コンソールにアクセスするスイッチが SSC0 または SSC1 のどちらにあるかによって、0 または 1 を指定します。

注 – c レベルの権限を持つほかのユーザーも、-f オプションを指定してこのコマンドを実行できます。したがって、ほかのユーザーから書き込みアクセス権を取得すると同様に、ほかのユーザーに書き込みアクセス権が移る場合もあります。

5.1.2 読み取り専用アクセス権でのブレードコンソールへのログイン

- コンソールへの書き込みアクセス権が必要でない場合 (コンソール出力のログをとるためだけの場合など) は、-r オプションを指定してコンソールにログインします。たとえば、スロット 7 にあるブレードのコンソールに読み取り専用アクセス権でログインするには、次のように入力します。

```
sc> console -r s7
```

5.2 スイッチまたはブレードのコンソールからシステムコントローラへの切り替え

- スイッチまたはブレードのコンソールを終了してシステムコントローラの `sc>` プロンプトに切り替えるには、「#」を入力してから「.」文字を入力します。

スイッチのコマンド行インタフェースまたはブレードコンソールでは、「#」エスケープシーケンスを入力すると、システムコントローラのコマンド行インタフェースに戻ります。

たとえば、スイッチコンソールで次のように入力します。ただし、入力した文字は画面に表示されません。

```
Console(config)##.
```

5.3 サーバブレードまたはスイッチのコンソールの履歴の表示

注 - サーバブレードまたはスイッチのコンソールの履歴を表示するには、c レベルのユーザー権限が必要です。使用可能なユーザー権限については、第 2 章を参照してください。

5.3.1 サーバブレードまたはスイッチの前回起動時のコンソール情報の表示

- スイッチコンソールの起動時バッファに格納されている情報を表示するには、次のように入力します。

```
sc> consolehistory boot sscn/sc
```

n には、起動時のコンソール情報を表示するスイッチが SSC0 または SSC1 のどちらにあるかによって、0 または 1 を指定します。

- サーバブレードコンソールの起動時バッファに格納されている情報を表示するには、次のように入力します。

```
sc> consolehistory boot sn
```

n には、起動時のコンソールデータを表示するサーバブレードが挿入されているスロット番号を指定します。

起動時バッファには、サーバブレードまたはスイッチの前のリセットまたは電源の投入時から、オペレーティングシステムが完全に初期化されて動作状態になる時点までの出力が格納されます。

5.3.1.1 表示するコンソール情報の行数の制御

注 - バッファ全体の内容を表示するには、コマンド行の `consolehistory` コマンドと `run` または `boot` オプションの間に、`-v` オプションを指定します。

デフォルトでは、`consolehistory` コマンドを実行すると、バッファに格納されている出力の最後の 20 行が表示されます。ただし、コマンド行で `-b` および `-g`、`-e` オプションを使用すると、このコマンドから返される情報の量を制御できます。

表示するコンソール情報の行数は、次のように指定できます。

- ファイルの終わりからの行数 (`-e`)
この指定には、`-e n` オプションを使用する必要があります。*n* には、表示する行数 (ファイルの終わりから) を指定します。
- ファイルの先頭からの行数 (`-b`)
この指定には、`-b n` オプションを使用する必要があります。*n* には、表示する行数 (ファイルの先頭から) を指定します。

また、指定した行数単位でコンソール情報をグループ化することもできます。コンソール情報をグループ化すると、各グループが表示されたあとで表示が一時停止します。次のグループを表示するには、任意のキーを押します。このように情報をグループ化するには、`-g n` オプションを使用します。*n* には、グループ化する行数を指定します。たとえば、スロット 7 にあるサーバブレードの動作中のコンソール情報を表示する場合、最後の 50 行を 10 行ずつのグループで表示するには次のように入力します。

```
sc> consolehistory -e 50 -g 10 run s7
```

5.3.2 動作中のコンソールバッファーの情報の表示

- スイッチコンソールの動作中バッファーに格納されている情報を表示するには、次のように入力します。

```
sc> consolehistory run sscn/swt
```

n には、動作中のコンソール情報を表示するスイッチが SSC0 または SSC1 のどちらにあるかによって、0 または 1 を指定します。

- サーバードコンソールの動作中バッファーに格納されている情報を表示するには、次のように入力します。

```
sc> consolehistory run sn
```

n には、動作中のコンソールデータを表示するサーバードが挿入されているスロット番号を指定します。

動作中バッファーには、最新のコンソール出力が格納されています。

コマンド行で `-b` および `-g`、`-e` オプションを使用すると、`consolehistory` コマンドから返される情報の量を制御できます (5-5 ページの 5.3.1.1 節「表示するコンソール情報の行数の制御」を参照)。

5.4 telnet を使用したサーバードコンソールへの直接アクセス

`telnet` コマンドを使用すると、サーバードコンソールに直接接続できます。つまり、`sc>` プロンプトで `console` コマンドを使用することなく、ブレードコンソールに `telnet` 接続できます。

この場合、システムコントローラへの `telnet` 接続を設定する必要があり、コマンド行ではブレード固有の IP ポート番号を指定する必要があります。使用可能なポート番号の範囲は 2300 ~ 2315 です。2300 はスロット `s0` のブレード、2301 はスロット `s1` のブレードを指定し、以降同様に指定します (ポート 2315 はスロット 15 のブレードを指定)。ブレードへのコンソール接続を設定する前に、ユーザー名とパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

- サーバブレードコンソールに telnet で直接接続するには、telnet コマンドに続けてシステムコントローラの IP アドレスまたはホスト名を入力してから、ブレード固有の IP ポート番号を入力します。

たとえば、シャーシのスロット s0 にあるブレードに telnet 接続するとき、そのシステムコントローラのホスト名が b1600_chassis_1 である場合には、次のように入力します。

```
% telnet b1600_chassis 2300
Trying 129.156.203.139...
Connected to b1600_chassis.
Escape character is '^]'.

Sun Advanced Lights Out Manager for Blade Servers 1.0 ALOM-B 1.0

username: admin
password: *****
[Connected with input enabled]

#
```

注 – 接続したブレードコンソールが、書き込みアクセス権を持つ別のユーザーによってすでに使用されている場合、この接続は「入力不可」の接続になります。この接続では、コンソールの動作を表示できますが、コマンドを入力して変更を加えることはできません。ほかのユーザーを強制的にコンソールからログオフさせて書き込みアクセス権を取得する方法については、5-2 ページの 5.1.1 節「別のユーザーのコンソールからの強制ログオフ」を参照してください。

注 – スイッチまたはブレードのコンソールでは、# を入力してアクティブシステムコントローラの sc> プロンプトに切り替えます。

第6章

コンポーネントの監視

この章は、次の節で構成されています。

- 6-2 ページの 6.1 節「概要」
- 6-3 ページの 6.2 節「システムコントローラの詳細の表示」
- 6-4 ページの 6.3 節「日付および時刻の確認」
- 6-5 ページの 6.4 節「ハードウェアコンポーネントの状態の確認」
- 6-7 ページの 6.5 節「コンポーネント内のオペレーティング環境の確認」
- 6-12 ページの 6.6 節「各コンポーネントに格納されているコンポーネントに関する情報の確認」
- 6-14 ページの 6.7 節「ロケータの点灯または消灯」

6.1 概要

システムコントローラのコマンド行インタフェースには、シャーシおよびそのコンポーネントに関する全体的な情報を提供するためのコマンド (`showsc` および `showplatform`、`showenvironment`、`showfru`) があります。

- `showsc` を使用すると、SC の設定可能なパラメタの現在の状態が示されます。
- `showplatform` を使用すると、各コンポーネントの状態 (OK、Faulty、Not Present) および MAC アドレスが示されます。
- `showenvironment` を使用すると、シャーシ内のコンポーネントの動作状態に関する情報 (内部温度、ファンの速度、電源供給経路の電流レベルなど) が示されます。
- `showfru` を使用すると、各コンポーネントに格納されているそのコンポーネントに関する情報が示されます。この情報には、静的なデータ (ハードウェアのバージョン情報など) および動的なデータ (コンポーネントで生成された最近のイベントなど) が含まれています。

6.2 システムコントローラの詳細の表示

showsc コマンドを実行すると、システムコントローラの設定可能なすべてのプロパティが、次のように表示されます。

```
sc> showsc

Sun Advanced Lights Out Manager for Blade Servers 1.0
ALOM-B 1.0

Release: 0.2.0, Created: 2003.01.10.11.03

Parameter                                Running Value      Stored Value
-----
Bootable Image :                          0.2.0 (Jan 10 03)
Current Running Image :                   0.2.0 (Jan 10 03)
SC IP address:                             192.156.203.139   129.156.203.139
SC IP netmask address:                     255.255.255.0     255.255.255.0
SC IP gateway address:                     192.168.1.1       192.168.1.1
SSC1/SC (Active) IP private address:      192.168.1.200    192.168.1.200
SSC0/SC (Standby) IP private address:    192.168.1.201    192.168.1.201
SMS IP address:                            0.0.0.0           0.0.0.0
SC VLAN:                                    Disabled           Disabled
SC DHCP:                                    Enabled            Enabled
SC Network interface is:                   Enabled            Enabled
SC Telnet interface is:                    Enabled            Enabled
NTP:                                        Disabled           Disabled
Blade auto restart when hung:
S0                                          Disabled           Disabled
S1                                          Disabled           Disabled
S2                                          Disabled           Disabled
S3                                          Disabled           Disabled
Blade auto poweron:
S0                                          Disabled           Disabled
S1                                          Disabled           Disabled
S2                                          Disabled           Disabled
S3                                          Disabled           Disabled
The CLI prompt is set as:                  sc>                sc>
Event Reporting via telnet interface:      Enabled            Enabled
The CLI event level is set as:             CRITICAL           CRITICAL
The CLI timeout (seconds) is set at:       0                  0
Mask password with *'s:                    Disabled           Disabled
sc>
```

- 前述のすべての詳細とサーバブレードに現在インストールされているファームウェアのバージョン番号を表示するには、次のように `-v` オプションを使用します。

```
sc> showsc -v
:
FRU      Software Version          Software Release Date
-----
S0       Unavailable
S1       v1.1T30-SUNW, Serverblade1  Oct 24 2002 16:22:24
S2       v1.1T30-SUNW, Serverblade1  Oct 24 2002 16:22:24
S3       v1.1T30-SUNW, Serverblade1  Oct 24 2002 16:22:24
S4       v1.1T30-SUNW, Serverblade1  Oct 24 2002 16:22:24
S5       v1.1T30-SUNW, Serverblade1  Oct 24 2002 16:22:24
S6       v1.1T30-SUNW, Serverblade1  Oct 24 2002 16:22:24
S7       v1.1T30-SUNW, Serverblade1  Oct 24 2002 16:22:24
S8       v1.1T30-SUNW, Serverblade1  Oct 24 2002 16:22:24
S9       v1.1T30-SUNW, Serverblade1  Oct 24 2002 16:22:24
S10      Not Present
S11      Not Present
S12      Not Present
S13      v1.1T30-SUNW, Serverblade1  Oct 24 2002 16:22:24
S14      v1.1T30-SUNW, Serverblade1  Oct 24 2002 16:22:24
S15      v1.1T30-SUNW, Serverblade1  Oct 24 2002 16:22:24
sc>
```

「:」記号は、データが省略されていることを示しています。

6.3 日付および時刻の確認

注 - 4 つのレベルのいずれかのユーザー権限を持つユーザーは、`showdate` コマンドを使用して、システムコントローラ上の日付および時刻を確認できます。使用可能な権限のレベルについては、第 2 章を参照してください。

- SC の日付および時刻を確認するには、次のように入力します。

```
sc> showdate
Wed Mar 27 11:42:40 UTC 2002
```

日付および時刻の設定方法については、『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシソフトウェア設定マニュアル』を参照してください。

6.4 ハードウェアコンポーネントの状態の確認

注 - 4つのレベルのいずれかのユーザー権限を持つユーザーは、`showplatform` コマンドを使用して、ハードウェアの動作状態を確認できます。使用可能な権限のレベルについては、第2章を参照してください。

スイッチ/システムコントローラおよびサーバーブレード、電源装置の動作状態を確認するには、次のように入力します。

```
sc>showplatform -v
```

FRU	Status	Type	Part No.	Serial No.
S0	Faulty	SF B100s	5405078	000601
S1	OK	SF B100s	5405078	000405
S2	OK	SF B100s	5405078	000539
S3	OK	SF B100s	5405078	000523
S4	OK	SF B100s	5405078	000615
S5	OK	SF B100s	5405078	000509
S6	OK	SF B100s	5405078	000523
S7	OK	SF B100s	5405078	000373
S8	OK	SF B100s	5405078	000945
S9	OK	SF B100s	5405078	000441
S10	Not Present	***	***	***
S11	Not Present	***	***	***
S12	Not Present	***	***	***
S13	OK	SF B100s	5405078	000867
S14	OK	SF B100s	5405078	000271
S15	OK	SF B100s	5405078	000698
SSC0	OK	SF B1600 SSC	5405185	000820
SSC0/SC				
SSC0/SWT				
SSC1	OK	SF B1600 SSC	5405185	000827
SSC1/SC				
SSC1/SWT				
PS0	OK	SF B1600 PSU	3001544	000958
PS1	OK	SF B1600 PSU	3001544	000959
CH	OK	SF B1600	5405082	000065

Domain	Status	MAC Address
S1	OS Stopped	00:03:ba:26:95:93
S2	OS Running	00:03:ba:26:92:27
S3	OS Running	00:03:ba:26:91:73
:		
SSC0/SWT	OS Running	00:03:ba:27:15:3e
SSC1/SWT	OS Running	00:03:ba:27:15:fb
SSC0/SC	OS Running	00:03:ba:1b:9f:17
SSC1/SC	OS Running	00:03:ba:1b:a1:cb

```
sc>
```

「:」記号は、データが省略されていることを示しています。

注 - このコマンドのコマンド行に `-v` を指定しない場合は、各ハードウェアの動作状態だけが表示され、MAC アドレスは表示されません。

6.5 コンポーネント内のオペレーティング環境の確認

`showenvironment` コマンドを使用して、シャーシ内の各ブレードおよびスイッチ、電源装置、SSC 内部の動作温度、ファン、電源供給経路を確認できます。このコマンドを実行すると、警告しきい値およびシャットダウンしきい値も表示されます。

注 - 4 つのレベルのいずれかのユーザー権限を持つユーザーは、`showenvironment` コマンドを使用して、プラットフォームおよびそのコンポーネントの健全性を確認できます。使用可能な権限のレベルについては、第 2 章を参照してください。

6.5.1 シャーシ全体の確認

- 次のように入力します。

```
sc> showenvironment -v
```

6.5.2 SSC だけの確認

- 次のように入力します。

```
sc> showenvironment sscn
```

n には、SSC0 または SSC1 のどちらに関する情報を表示するかによって、0 または 1 を指定します。

- 両方の SSC を確認するには、次のように入力します。

```
sc> showenvironment ssc0 ssc1

===== Environmental Status =====

System Temperatures (Celsius)      Current   Status
-----
SSC0      /TSensor/ambient    42        OK
SSC1      /TSensor/ambient    43        OK

System Voltages (Volts)             Current   Status
-----
SSC0      /VSensor/12VInput   11.50     OK
SSC0      /VSensor/BOD        11.96     Fault
SSC0      /VSensor/AOD        11.73     Fault
SSC0      /VSensor/VCore      1.87      OK
SSC1      /VSensor/12VInput   11.44     OK
SSC1      /VSensor/BOD        11.96     Fault
SSC1      /VSensor/AOD        11.73     Fault
SSC1      /VSensor/VCore      1.87      OK

System Fans (RPM)                   Current   Status
-----
SSC0      /Tacho/Fan0         0         Fault
SSC0      /Tacho/Fan1         10000     OK
SSC1      /Tacho/Fan0         0         Fault
SSC1      /Tacho/Fan1         0         Fault
sc>
```

6.5.3 電源装置だけの確認

- 次のように入力します。

```
sc> showenvironment psn
```

n には、PSU0 または PSU1 のどちらの情報を表示するかによって、0 または 1 を指定します。たとえば、PSU1 を確認するには、次のように入力します。

```
sc> showenvironment ps1

===== Environmental Status =====

System Temperatures (Celsius)      Current      Status
-----
PS1          /TSensor/ambient          28           OK

System Voltages (Volts)              Current      Status
-----
PS1          /VSensor/VOut0             11.94        OK
PS1          /VSensor/VOut1             11.94        OK
PS1          /VSensor/VOut2             11.94        OK
PS1          /VSensor/VOut3             11.94        OK
PS1          /VSensor/VOut4             11.94        OK
PS1          /VSensor/12VAux0           11.94        OK
PS1          /VSensor/12VAux1           12.00        OK

System Load Current (Amps)           Current      Status
-----
PS1          /ISensor/Load                37.60        OK

System Fans (RPM)                     Current      Status
-----
PS1          /Tacho/Fan0                 4655         OK
PS1          /Tacho/Fan1                 4530         OK
sc>
```

6.5.4 サーバースレードの確認

- 1 台のサーバースレードを確認するには、次のように入力します。

```
sc> showenvironment ps/n
```

n には、確認するスレードのスロット番号に応じて 0 ~ 15 の数値を指定します。たとえば、スロット `s0` のスレードを確認するには、次のように入力します。

```
sc> showenvironment s0
```

```
===== Environmental Status =====
```

```
System Temperatures (Celsius)      Current      Status
```

```
-----  
S0          /temp/enclosure      26          OK
```

```
S0          /temp/CPU die        48          OK
```

```
System Voltages (Volts)             Current      Status
```

```
-----  
S0          /VSensor/5V          100%        OK
```

```
S0          /VSensor/3V3        100%        OK
```

```
S0          /VSensor/2V5        99%         OK
```

```
S0          /VSensor/Vcore     100%        OK
```

```
System Fans (RPM)                   Current      Status
```

```
-----  
S0          /fan/cpu_fan      100%        OK
```

```
sc>
```


- 複数のサーバーブレードを確認するには、対象となるサーバーブレードを空白文字で区切って指定します。次のように入力します。

```
sc>showenvironment s0 s1 s2

===== Environmental Status =====

System Temperatures (Celsius)      Current      Status
-----
S0          /temp/enclosure    26           OK
S0          /temp/CPU die      48           OK
S1          /temp/enclosure    26           OK
S1          /temp/CPU die      42           OK
S2          /temp/enclosure    27           OK
S2          /temp/CPU die      46           OK

System Voltages (Volts)             Current      Status
-----
S0          /VSensor/5V        100%         OK
S0          /VSensor/3V3       100%         OK
S0          /VSensor/2V5       99%          OK
S0          /VSensor/Vcore     100%         OK
S1          /VSensor/5V        100%         OK
S1          /VSensor/3V3       100%         OK
S1          /VSensor/2V5       99%          OK
S1          /VSensor/Vcore     100%         OK
S2          /VSensor/5V        99%          OK
S2          /VSensor/3V3       100%         OK
S2          /VSensor/2V5       99%          OK
S2          /VSensor/Vcore     99%          OK

System Fans (RPM)                  Current      Status
-----
S0          /fan/cpu_fan       100%         OK
S1          /fan/cpu_fan       100%         OK
S2          /fan/cpu_fan       100%         OK
sc>
```

6.5.5 スイッチだけの確認

- 1つのスイッチを確認するには、次のように入力します。

```
sc> showenvironment sscn/swt
```

n には、SSC0 と SSC1 のどちらのスイッチを確認するかによって、0 または 1 を指定します。

- 両方のスイッチを確認するには、次のように入力します。

```
sc> showenvironment ssc0/swt ssc1/swt
```

System Voltages (Volts)	Current	Status
SSC0/SWT /VSensor/VCore	1.77	OK
SSC0/SWT /VSensor/3V3	3.28	OK
SSC0/SWT /VSensor/1V25	1.23	OK
SSC0/SWT /VSensor/2V5	2.48	OK
SSC0/SWT /VSensor/1V2	1.23	OK
SSC1/SWT /VSensor/VCore	1.75	OK
SSC1/SWT /VSensor/3V3	3.28	OK
SSC1/SWT /VSensor/1V25	1.24	OK
SSC1/SWT /VSensor/2V5	2.47	OK
SSC1/SWT /VSensor/1V2	1.22	OK

```
sc>
```

6.6 各コンポーネントに格納されているコンポーネントに関する情報の確認

showfru コマンドを使用して、各コンポーネントに格納されているそのコンポーネントに関する情報のデータベースを表示できます。

注 - showfru コマンドを使用するには、c レベルのユーザー権限が必要です。権限のレベルについては、第 2 章を参照してください。

- コンポーネントに格納されているそのコンポーネントに関する情報を表示するには、次を実行します。

```
sc> showfru FRU list
```

FRU list には、1 台の FRU または空白文字で区切った FRU のリストを指定します。FRU には、ssc0 または ssc1、ps0、ps1、dn を指定できます。n には、0 ~ 15 の数値を指定します。

たとえば、SSC0 およびスロット s0 のブレードに関する FRUID 情報を表示するには、次のように入力します。

```
sc> showfru ssc0 s0
-----
FRUID Records for FRU SSC0
-----
SEGMENT: SD
/ManR/UNIX_Timestamp32: Wed Jan 08 15:26:53 UTC 2003
/ManR/Fru_Description: SUNW,Sun Fire B1600 SSC, 8x1GB NET, 1x10MB
NET MGT, 1 Serial MGT
/ManR/Manufacture_Loc: Hsinchu, Taiwan - FRUID Updated
/ManR/Sun_Part_No: 5405185
/ManR/Sun_Serial_No: 000820
:
-----
FRUID Records for FRU S0
-----
SEGMENT: SD
/ManR/UNIX_Timestamp32: Thu Jan 09 14:45:57 UTC 2003
/ManR/Fru_Description: SUNW,Sun Fire B100s, 1 CPU, 30GB HDD, 512MB
MEM
/ManR/Manufacture_Loc: Hsinchu, Taiwan - FRUID Updated
/ManR/Sun_Part_No: 5405078
/ManR/Sun_Serial_No: 000254
:
sc>
```

「:」記号の行は、データが省略されていることを示しています。

- シャーシのシリアル番号を確認するには、システムコントローラのコマンド行で `showfru ch` コマンドを実行し、`/ManR/Sun_serial_No` のフィールドを調べます。

```
sc> showfru ch
SEGMENT: SD
/ManR/UNIX_Stamp32: Wed Jan 08 15:10:17 UTC 2003
/ManR/Fru_Description: SUNW,Sun Fire B1600
/ManR/Manufacture_Loc: Hsinchu, Taiwan - FRUID Updated
/ManR/Sun_Part_No: 5405082
/ManR/Sun_Serial_No: 000004
/ManR/Vendor_Name: Mitac International
/ManR/Initial_HW_Dash_Level: 01
/ManR/Initial_HW_Rev_Level: 01
/ManR/Fru_Shortname: SF B1600
/SpecPartNo: 885-0069-05
:
sc>
```

sc> プロンプトの上の「:」記号は、データが省略されていることを示しています。

6.7 ロケータの点灯または消灯

シャーシのコンポーネントに問題が発生した場合に、保守対象となるシャーシを検出するには、次のコマンドを使用してロケータを点灯します。

- ロケータを点灯させるには、次のように入力します。

```
sc> showlocator on
```

- ロケータを消灯させるには、次のように入力します。

```
sc> showlocator off
```

システムシャーシの正面および背面のロケータとその他の LED の配置図については、付録 A を参照してください。

第7章

スタンバイシステムコントローラの アクティブシステムコントローラへ の切り替え

この章は、次の節で構成されています。

- 7-2 ページの 7.1 節「システムコントローラの役割の交換」

7.1 システムコントローラの役割の交換

この章では、スタンバイシステムコントローラをアクティブシステムコントローラに切り替える方法について説明します。

注 – この手順を行うには、システムコントローラの `r` レベルの権限が必要です。ユーザー権限については、第 2 章を参照してください。

アクティブシステムコントローラに障害が発生していなくても、スタンバイシステムコントローラをアクティブシステムコントローラに強制的に切り替える必要がある場合があります。たとえば、システムコントローラのファームウェアをアップグレードする場合に、この切り替えを行う必要があります。アクティブシステムコントローラのファームウェアは、アップグレードできません。

- スタンバイシステムコントローラをアクティブシステムコントローラに切り替えるには、`sc>` プロンプトで次のように入力します。

```
sc> setfailover
SSC0 is in Active Mode
SSC1 is in Standby Mode.
Are you sure you want to failover to SSC1?
All connections and user sessions will now be lost on SSC0 (y/n)? y

System Controller in SSC0 is now in Standby mode
```

- どのシステムコントローラがアクティブであるかを確認するには、次のように入力します。

```
sc> setfailover
SSC0 is in Active Mode
SSC1 is in Standby Mode.
Are you sure you want to failover to SSC1?
All connections and user sessions will now be lost on SSC0 (y/n)? n
sc>
```

第8章

サーバーブレードの起動動作の制御

この章は、次の節で構成されています。

- 8-2 ページの 8.1 節「概要」
- 8-2 ページの 8.2 節「使用可能な起動モード」

8.1 概要

注 - bootmode コマンドを使用するには、システムコントローラの `r` レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限については、第 2 章を参照してください。

システムコントローラの `sc>` プロンプトで `bootmode` コマンドを使用して、サーバーブレードの起動時の動作を制御できます。このコマンドの機能は、サンのキーボードの L1 キーを組み合わせることで実行できる機能と同じです。ただし、サーバーブレードでは、L1 キーの組み合わせを使用できないため `bootmode` コマンドを使用します。

`bootmode` コマンドの構文は、次のとおりです。

```
bootmode [reset_nvram|diag|skip_diag|normal|bootscript="string"]
{blade list}
```

`blade list` には、起動時の動作を設定するブレード (文字「s」とそのあとのスロット番号で識別) を空白文字で区切って指定します。

コマンド行オプション (`reset_nvram` および `diag`、`skip_diag`、`normal`、`bootscript="string"`) については、8-2 ページの 8.2 節「使用可能な起動モード」を参照してください。

8.2 使用可能な起動モード

`bootmode` コマンドに引数を指定せずに実行すると、各ブレードの現在の起動モードおよびそのモードの有効期限がシステムコントローラによって報告されます。

注 - `bootmode` コマンドを使用してブレードの起動時の動作に変更を加えた場合は、`bootmode` コマンドの実行後 10 分以内に、そのブレードをリセットする必要があります。リセットしないと、ブレードの起動モードの設定は `normal` に戻ります。サーバーブレードのリセットについては、第 3 章を参照してください。

表 8-1 に、使用可能な起動モードの一覧を示します。

表 8-1 サーバースレードで使用可能な起動モード

モード	説明
normal	このパラメタを指定して bootmode を実行すると、指定したサーバースレードは、OpenBoot™ PROM パラメタの現在の設定を使用して起動します。このコマンドでの設定を有効にするには、コマンドの実行後 10 分以内にブレードをリセットする必要があります (ブレードのリセットについては、第 3 章を参照)。
reset_nvram	このパラメタを指定して bootmode を実行すると、指定されたサーバースレードの nvram の設定は、出荷時のデフォルト設定に戻ります。このコマンドの機能は、サンのキーボードの L1-N キーの組み合わせと同じです。このコマンドでの設定を有効にするには、コマンドの実行後 10 分以内にブレードをリセットする必要があります (ブレードのリセットについては、第 3 章を参照)。
diag	このパラメタを指定して bootmode を実行すると、指定されたサーバースレードの起動処理の一部として、完全な自己診断が実行されます。このコマンドの機能は、サンのキーボードの L1-D キーの組み合わせと同じです。このコマンドでの設定を有効にするには、コマンドの実行後 10 分以内にブレードの電源を再投入する必要があります (ブレードのリセットについては、第 3 章を参照)。
skip_diag	このパラメタを指定して bootmode を実行すると、サーバースレードの起動処理での診断が省略されます。このコマンドでの設定を有効にするには、コマンドの実行後 10 分以内にブレードをリセットする必要があります (ブレードのリセットについては、第 3 章を参照)。
bootscript=script	このパラメタを指定して bootmode を実行する場合は、ブレードが起動される前に実行する OBP コマンドを含む文字列を指定する必要があります。スロット s0 および s1、s2 にあるブレードをネットワークから起動する場合の bootscript パラメタの使用例を、次に示します。 <pre>sc>bootmode bootscript="boot net - install" s0 s1 s2 sc>poweron s0 s1 s2</pre>

第9章

システムコントローラのパスワード を忘れた場合の作業

システムコントローラのパスワードを忘れた場合は、次の手順を実行します。

1. スタンバイシステムコントローラを含む SSC を取り外してから、再度挿入します。
2. 挿入後 5 分以内に、アクティブシステムコントローラを含む SSC へのシリアル接続を設定し、ユーザー admin でログインします。

SSC へのシリアル接続の設定については、『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシハードウェア設置マニュアル』を参照してください。

ログインするには、デフォルトユーザー名 admin を入力します。

```
username: admin
```

3. sc> プロンプトで、デフォルトユーザー (admin) の新しいパスワードを設定します。

ユーザー admin の新しいパスワードを設定するには、次のように入力します。

```
sc>password  
Enter new password:*****  
Enter new password again: *****  
sc>
```

パスワードには、英字で始まる最大 8 文字の長さの文字列を指定します。文字列には、英小文字を 1 文字以上含めます。パスワードには、次の文字を使用できます。

- 英字
- 数字
- ピリオド (.)
- 下線 (_)
- ハイフン (-)

4. ユーザー自身の新しいユーザー名およびパスワードを設定します。

ユーザー名およびパスワードの設定手順については、このマニュアルの第 2 章を参照してください。

第10章

ファームウェアのアップグレード手順

この章は、次の節で構成されています。

- 10-2 ページの 10.1 節「概要」
- 10-3 ページの 10.2 節「TFTP サーバーの設定」
- 10-5 ページの 10.3 節「TFTP サーバーへのファームウェアイメージのインストール」
- 10-6 ページの 10.4 節「システムコントローラのファームウェアのアップグレード」
- 10-9 ページの 10.5 節「ブレードのブレードサポートチップファームウェアのアップグレード」
- 10-11 ページの 10.6 節「サーバーブレードの OpenBoot PROM (OBP) ファームウェアのアップグレード」
- 10-15 ページの 10.7 節「統合スイッチのファームウェアのアップグレード」

10.1 概要

注 – この章のアップグレード手順を実行するには、**telnet** でシステムコントローラ (SC) にログインする必要があります。これは、新しいファームウェアをネットワーク上から転送する必要があるためです。

この章では、次のファームウェアをアップグレードする方法について説明します。

- 1 つまたは両方のシステムコントローラ
- 1 つ以上のブレードサポートチップ (サーバブレードはそれぞれ 1 つのブレードサポートチップ (BSC) を搭載)
- 1 つ以上のブレードの **OpenBoot PROM (OBP)**
- 1 つまたは両方のスイッチ

この章では、簡易ファイル転送プロトコル (TFTP : Trivial File Transfer Protocol) サーバーがネットワーク上に設定されていない場合に、この設定を行う方法についても説明します。ファームウェアのアップグレード手順では、TFTP を使用する必要があります。

各サーバブレードに搭載された BSC は、システムコントローラの管理エージェントです。BSC は、それが常駐するサーバブレードに関する情報をシステムコントローラに伝達します。また、システムコントローラのコマンド行インタフェースで入力されたコマンドを受信し処理します。

ご購入先のサポート技術者から、システムコントローラまたはサーバブレード、統合スイッチに新しいファームウェアをダウンロードするように指示された場合は、この章の手順に従います。

システムコントローラおよびサーバブレードの新しいファームウェアは、パッチとして SunSolve から入手できます。これらのパッチはオペレーティングシステムのパッチではないため、Solaris 標準の `patchadd(1m)` ユーティリティを使用してインストールするものではありません。このパッチを展開すると、表 10-1 に示すファイル名のファームウェアイメージが提供されます。

表 10-1 ファームウェアのファイル名

ファームウェアイメージ	ファイル名
システムコントローラアプリケーション	SunFireB1600-sc-vxxxx.flash ¹
統合スイッチファームウェア	SunFireB1600-switch-vxxxx.flash ¹
ブレードサポートチップファームウェア	SunFireB100s-bsc-vxxxx.flash ¹
OpenBoot PROM ファームウェア アップグレードユーティリティ	SunFireB100s-obp-vxxxx.sh ¹

1. vxxxx はファームウェアのバージョン番号を表します。たとえば、SunFireB1600-switch-v1.0.0.10.flash ファイルは、スイッチファームウェアのバージョン 1.0.0.10 のイメージです。

この章の手順に加えて、パッチの README ファイルに記載された特別な手順も実行してください。

10.2 TFTP サーバーの設定

Sun B1600 ブレードシステムシャーシの各コンポーネントでのファームウェアのアップグレード手順では、TFTP を使用します。このため、アップグレードを行う場合は、ネットワークで TFTP サーバーが使用可能である必要があります。

注 – データ用と管理用に分離されたネットワークを使用している場合は、両方のネットワークで TFTP サーバーが使用可能である必要があります。

ネットワーク上の Solaris システムを TFTP 要求に対応するように設定するには、次の手順を実行します。

1. TFTP サーバーとして設定するシステムに、スーパーユーザーでログインします。
2. テキストエディタを使用して、/etc/inetd.conf ファイルでコメントになっている次の行を有効にします。

```
tftp dgram udp6 wait root /usr/sbin/in.tftpd in.tftpd -s /tftpboot
```

3. 同じシステムの Solaris プロンプトで次のように入力して、TFTP のホームディレクトリを作成します。

```
# mkdir /tftpboot
# chown root /tftpboot
# chmod 755 /tftpboot
# cd /tftpboot
# ln -s . tftpboot
```

4. 次のように入力して、inetd を再起動します。

```
# pkill -HUP inetd
```

5. TFTP が動作していることを確認します。

確認するには、TFTP を使用して /tftpboot ディレクトリからファイルを取り出します。次の手順を実行します。

- a. TFTP サーバーとして使用しているシステムで、任意のファイル (Solaris の /etc/release ファイルなど) を /tftpboot ディレクトリにコピーします。
Solaris プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# cp /etc/release /tftpboot/filename
```

filename には、TFTP サーバーから取り出せるようにするファイルの名前を指定します。

- b. コピーしたファイルが、読み取り専用となるように設定します。

```
# chmod 444 /tftpboot/filename
```

filename には、TFTP サーバーから取り出せるようにするファイルの名前を指定します。

注 – TFTP は FTP とは異なります。TFTP は FTP のようなエラーメッセージを表示しません。また、FTP では使用できる cd または ls コマンドなどのコマンドの多くは、TFTP では使用できません。

10.3 TFTP サーバーへのファームウェアイメージのインストール

SunSolve から Sun Fire B1600 ファームウェアのパッチをダウンロードしてファームウェアイメージを展開したあとで、これらのファームウェアイメージを TFTP サーバーの /tftpboot ディレクトリにインストールする必要があります。これによって、システムコントローラの flashupdate コマンドでこれらのファームウェアイメージを使用できるようになります。

- 作成した TFTP サーバーにファームウェアをインストールするには、そのシステムの # プロンプトで次のように入力します。

```
# cd sc-firmware-patch-dir
# cp SunFireB1600-sc-vxxxx.flash /tftpboot
# chmod 444 /tftpboot/SunFireB1600-sc-vxxxx.flash

# cd switch-firmware-patch-dir
# cp SunFireB1600-switch-vxxxx.flash /tftpboot
# chmod 444 /tftpboot/SunFireB1600-switch-vxxxx.flash

# cd bsc-firmware-patch-dir
# cp SunFireB100s-bsc-vxxxx.flash /tftpboot
# chmod 444 /tftpboot/SunFireB100s-bsc-vxxxx.flash
```

ここで指定する値の意味は、次のとおりです。

- *vxxxxx* は、ファームウェアのバージョン番号です。
- *sc-firmware-patch-dir* は、システムコントローラのファームウェアパッケージの内容を展開したディレクトリです。
- *switch-firmware-patch-dir* は、スイッチのファームウェアパッケージの内容を展開したディレクトリです。
- *bsc-firmware-patch-dir* は、BSC のファームウェアパッケージの内容を展開したディレクトリです。

10.4 システムコントローラのファームウェアのアップグレード

注 - システムコントローラのファームウェアをアップグレードするには、a レベルのユーザー権限が必要です。使用可能なユーザー権限のレベルについては、2-4 ページの 2.4 節「ほかのユーザーの名前付きユーザーアカウントの設定」を参照してください。

注 - スタンバイシステムコントローラのファームウェアをアップグレードするために、スタンバイシステムコントローラをアクティブシステムコントローラに切り替えるには、setfailover コマンドを使用します (第 7 章を参照)。

アップグレードを行うには、次の手順を実行します。

1. システムコントローラのファームウェアの現在のバージョンを確認します。
次のように入力します。

```
sc>showsc

Sun Advanced Lights Out Manager for Blade Servers 1.0
ALOM-B 1.0

Release: 1.0.41

Parameter                                Running Value      Stored Value
-----
Bootable Image :                          1.0.41 (Dec 13 02)
Current Running Image :                    1.0.41 (Dec 13 02)
...
```

システムコントローラのファームウェアの現在のバージョンは、「Current Running Image」というラベルが付いた行に表示されます。

2. システムコントローラのファームウェアイメージに添付されたパッチの README ファイルを参照して、ファームウェアのバージョンを確認します。
また、特別な手順や注意についても確認してください。

3. アップグレードを行う必要があるかどうかを判断します。

システムコントローラのファームウェアの現在のバージョンが、パッチの README ファイルに記述されたバージョン番号と一致する場合は、このシステムコントローラではアップグレードを行う必要はありません。

システムコントローラのファームウェアの現在のバージョンが、パッチの README ファイルに記述された最新のファームウェアのバージョンよりも古い場合は、手順 4 に進みます。

4. sc> プロンプトで、次のように入力します。

```
sc> flashupdate -s ipaddress -f path [-v] [-y] sscn
```

指定する値は次のとおりです。

path には、ダウンロードする新しいファームウェアのパスおよびファイル名を指定します。

ipaddress には、新しいファームウェアを格納するコンピュータ (つまり、TFTP サーバー) の IP アドレスを指定します。

n には、新しいファームウェアを SSC0 と SSC1 のどちらにダウンロードするかによって、0 または 1 を指定します。

-v (verbose) オプションを使用すると、詳細な出力画面が表示され、ファームウェアアップグレードの進行状況を監視できます。*-y* オプションを使用すると、アップグレードコマンドの実行時に、処理続行の確認を求めるプロンプトが表示されません。

5. アップグレード処理が完了したら、新しいファームウェアを動作させるために、システムコントローラをリセットします。

次のように入力します。

```
sc> resetsc -y
```

-y オプションを使用すると、システムコントローラのリセット時に、処理続行の確認を求めるプロンプトが表示されません。

6. システムコントローラで新しいファームウェアが動作していることを確認します。
次のように入力します。

```
sc>showsc

Sun Advanced Lights Out Manager for Blade Servers 1.0
ALOM-B 1.0

Release: 1.0.97

Parameter                                Running Value      Stored Value
-----
Bootable Image :                          1.0.97 (Jan 06 03)
Current Running Image :                    1.0.97 (Jan 06 03)
```

7. スタンバイシステムコントローラのファームウェアをアップグレードします。

注 - スタンバイシステムコントローラのファームウェアをアップグレードするために、スタンバイシステムコントローラをアクティブシステムコントローラに切り替えるには、setfailover コマンドを使用する必要があります (第 7 章を参照)。

- a. 第 7 章の手順に従って、スタンバイシステムコントローラをアクティブシステムコントローラに切り替えます。
- b. 前述の手順 1 ~ 手順 6 を実行します。

10.4.1 システムコントローラのファームウェアをアップグレードする例

IP アドレス 129.156.237.102 の TFTP サーバーから SSC0 のシステムコントローラに新しいイメージ (SunFireB1600-sc-v1.0.97.flash) をダウンロードするには、SC のコマンド行で次のように入力する必要があります。

```
sc> flashupdate -s 129.156.237.102 -f
SunFireB1600-sc-v1.0.97.flash ssc0
Warning: Are you sure you want to update the flash image (y/n)? y
Erasing segment 2f Programming address ffaeffef
Update of SSC0/SC complete.
The system must be reset (using resetsc) for the new image to be
loaded
sc> resetsc
```

10.5 ブレードのブレードサポートチップ ファームウェアのアップグレード

1. ブレードの BSC ファームウェアの現在のバージョンを確認します。

各ブレードで動作しているファームウェアの現在のバージョンは、`showsc -v` コマンドの出力の最後に表示されます。次に例を示します。

```
sc>showsc -v

Sun Advanced Lights Out Manager for Blade Servers 1.0
ALOM-B 1.0
:
:
FRU      Software Version                Software Release Date
-----
S0       v5.0.0-SUNW,Serverblade1        Dec 11 2002 17:19:00
S1       v5.0.0-SUNW,Serverblade1        Dec 11 2002 17:19:00
S2       v5.0.0-SUNW,Serverblade1        Dec 11 2002 17:19:00
S3       v5.0.0-SUNW,Serverblade1        Dec 11 2002 17:19:00
S4       v5.0.0-SUNW,Serverblade1        Dec 11 2002 17:19:00
S5       v5.0.0-SUNW,Serverblade1        Dec 11 2002 17:19:00
S6       v5.0.0-SUNW,Serverblade1        Dec 11 2002 17:19:00
:
:
S15      v5.0.0-SUNW,Serverblade1        Dec 11 2002 17:19:00
```

「:」記号は、データが省略されていることを示しています。

2. BSC ファームウェアイメージに添付されたパッチの README ファイルを参照して、ファームウェアのバージョンを確認します。

また、特別な手順や注意についても確認してください。

3. アップグレードを行う必要があるかどうかを判断します。

ブレードの BSC ファームウェアの現在のバージョンが、パッチの README ファイルに記述されたバージョン番号と一致する場合は、このブレードではアップグレードを行う必要はありません。

BSC ファームウェアの現在のバージョンが、パッチの README ファイルに記述された最新のファームウェアのバージョンよりも古い場合は、手順 4 に進みます。

4. `sc>` プロンプトで、次のように入力します。

```
sc> flashupdate -s ipaddress -f path [-v] [-y] sn {sn | sn}
```

指定する値は、次のとおりです。

`path` には、ダウンロードする新しいファームウェアのパスおよびファイル名を指定します。

`ipaddress` には、新しいファームウェアを格納するコンピュータ (つまり、TFTP サーバー) の IP アドレスを指定します。

`n` には、ファームウェアをアップグレードするブレードを指定します。

`{sn | sn}` には、オプションで、アップグレードするブレードのリストを空白文字で区切って指定します。

`-v (verbose)` オプションを使用すると、詳細な出力画面が表示され、ファームウェアのアップグレードの進行状況を監視できます。`-y` オプションを使用すると、アップグレードコマンドの実行時に、処理続行の確認を求めるプロンプトが表示されません。

5. ブレードで新しいファームウェアが動作していることを確認します。

手順 1 をもう一度実行して、ブレードのファームウェアがアップグレードされていることを確認します。

10.5.1 1 台のブレードのファームウェアをアップグレードする例

IP アドレス 129.156.237.102 の TFTP サーバーの `/tftpboot` ディレクトリからスロット 2 のブレードに新しいイメージ (`SunFireB1600-bsc-v5.0.0.flash`) をダウンロードするには、次のように入力します。

```
sc> flashupdate -s 129.156.237.102 -f
SunFireB1600-bsc-v5.0.0.flash s2
Warning: Are you sure you want to update s2 bsc image;
all console connections to the fru will be reset (y/n)? y
131072 bytes of 131072 completed on s2
Update of s2 complete
sc>
```

10.5.2 複数のブレードのファームウェアをアップグレードする例

IP アドレス 129.156.237.102 の TFTP サーバーからスロット 5 および 10、13 のブレードに新しいイメージ (SunFireB1600-bsc-v5.0.0.flash) をダウンロードするには、次のように入力します。

```
sc> flashupdate -s 129.156.237.102 -f
SunFireB1600-bsc-v5.0.0.flash s5 s10 s13
Warning: Are you sure you want to update s5 bsc image;
all console connections to s5 will be reset (y/n)? y
131072 bytes of 131072 completed on s5
Update of s5 complete
Warning: Are you sure you want to update s10 bsc image;
all console connections to s10 will be reset. (y/n)? y
131072 bytes of 131072 completed on s10
Update of s10 complete
Warning: Are you sure you want to update s13 bsc image;
all console connections to s13 will be reset (y/n)? y
131072 bytes of 131072 completed on s13
Update of s13 complete
sc>
```

10.6 サーバードブレードの OpenBoot PROM (OBP) ファームウェアのアップグレード

この節では、サーバードブレードの OBP ファームウェアをアップグレードする方法について説明します。ここで示す手順は、アップグレードするブレード自体の Solaris オペレーティング環境で実行する必要があります。

1. ブレードの OBP ファームウェアの現在のバージョンを確認します。

Solaris プロンプトで次のように入力します。

```
# /usr/sbin/prtconf -v
  OBP  4.7.3 2002/12/09 08:30
```

または、ブレードの PROM モニターの ok プロンプトで次のように入力します。

```
ok .version
  Release  4.7.3 created 2002/12/09 08:30
  OBP  4.7.3 2002/12/09 08:30 Sun Serverblade1
```

2. OBP ファームウェアのアップグレード版をブレードの任意の場所にコピーします。
3. 新しいファームウェアをコピーしたディレクトリに移動し、その zip ファイルを解凍します。

```
# cd /var/tmp
# unzip patchnumber-rev.zip
# cd patchnumber-rev
```

次に例を示します。

```
# cd /var/tmp
# unzip 123456-01.zip
# cd 123456-01
```

4. パッチの README ファイルに記述された OBP ファームウェアのバージョンを確認します。また、特別な手順についても確認します。
5. 特定のブレードに対して、OBP ファームウェアのアップグレードを行う必要があるかどうかを判断します。

フラッシュ PROM の現在のバージョンが、パッチの README ファイルに記述されたバージョン番号と一致する場合は、このブレードではアップグレードを行う必要はありません。

フラッシュ PROM ファームウェアの現在のバージョンが、パッチの README ファイルに記述された最新のファームウェアのバージョンよりも古い場合は、手順 6 に進みます。

6. ブレードで、OBP ファームウェアのアップグレードの準備を行います。

すべてのアプリケーションを終了します。手順 8 で実行する OBP アップグレードユーティリティーによってブレードのオペレーティング環境が再起動されるため、この手順を実行する必要があります。

7. スーパーユーザーになります。

8. OBP アップグレードユーティリティーを実行します。

次のように入力します。

```
# cd /var/tmp/patchnumber-rev
# chmod +x SunFireB100s-obp-vxxxxx.sh
# ./SunFireB100s-obp-vxxxxx.sh
```

vxxxxx には、ファームウェアのバージョンを指定します。

次に、コマンドの例を示します。

```
# ./SunFireB100s-obp-v4.7.3.sh

Flash Update 2.4: Program and system initialization in progress...

Current System Flash PROM Revision:
-----
OBP 4.7.0.stlo.v111 2002/11/01 17:44 Sun

Available System Flash PROM Revision:
-----
OBP 4.7.3 2002/12/09 08:30

NOTE: The system will be rebooted (reset) after the firmware has been
updated. However, if an error occurs then the system will NOT be
rebooted.

Do you wish to update the firmware in the system Flash PROM? yes/no:
yes

Erasing the top half of the Flash PROM.
Programming OBP into the top half of the Flash PROM.
Verifying OBP in the top half of the Flash PROM.

Erasing the bottom half of the Flash PROM.
Programming OBP into the bottom half of Flash PROM.
Verifying OBP in the bottom half of the Flash PROM.

Erasing the top half of the Flash PROM.
Programming POST into the top half of Flash PROM.
Verifying POST in the top half of the Flash PROM.

The system's Flash PROM firmware has been updated.

Please wait while the system is rebooted...
```

9. 手順 1 をもう一度実行して、ファームウェアが正常にアップグレードされたことを確認します。

10.7 統合スイッチのファームウェアのアップグレード

注 – この節の手順を実行するには、新しいファームウェアをダウンロードするスイッチに IP アドレスが設定されている必要があります。IP アドレスの設定については、『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシソフトウェア設定マニュアル』を参照してください。

いずれかの SSC に接続されたスイッチに新しいファームウェアをダウンロードするには、次の手順を実行します。

1. 新しいファームウェアをダウンロードするスイッチのコンソールにアクセスします。コンソールにアクセスするには、次のように入力します。

```
sc> console sscn/swt
```

n には、アップグレードするスイッチが SSC0 と SSC1 のどちらに接続されているかによって、0 または 1 を指定します。

2. プロンプトが表示されたら、スイッチのユーザー名とパスワードを入力します。
デフォルトのユーザー名 (admin) とパスワード (admin) によるスイッチへのアクセスおよびパスワードの設定については、『Sun B1600 ブレードシステムシャーシソフトウェア設定マニュアル』(817-1888) を参照してください。
3. スwitchのファームウェアイメージに添付されたパッチの README ファイルを参照して、ファームウェアのバージョンを確認します。また、特別な手順や注意についても確認します。

4. アップグレードを行う必要があるかどうかを判断します。

現在インストールされているオペレーションコードファームウェアのバージョン番号を確認します。

次のように入力します。

```
Console# show version

Unit1
Serial number :
Service tag :
Hardware version :
Number of ports :24
Main power status :up
Redundant power status :not present
Agent(master)
Unit id :1
Loader version :0.0.6.5
Boot rom version :0.0.7.3
Operation code version :0.0.0.7
```

オペレーションコードのバージョンは、画面出力の最終行に表示されます。

オペレーションコードファームウェアの現在のバージョンが、パッチの README ファイルに記述されたバージョン番号と一致する場合は、このスイッチではアップグレードを行う必要はありません。

オペレーションコードファームウェアの現在のバージョンが、パッチの README ファイルに記述された最新のファームウェアのバージョンよりも古い場合は、次の手順に進みます。

5. スイッチに複数のバージョンのオペレーションコードファームウェアが格納されているかどうかを確認します。

次のように入力します。

```
Console#dir

          file name      file type startup size (byte)
-----
          diag_v0073     Boot-Rom image      Y  114228
          runtime_v0005  Operation Code      N  1012032
          runtime_v0007  Operation Code      Y  1018048
          Factory_Default_Config.cfg  Config File        Y   2574
-----
                                Total free space:  6230132
```

6. 「N」という印の付いたオペレーションコードファイルをすべて削除します。

手順 5 の例では、次のように入力して、使用されていないファームウェアを削除します。

```
Console#delete runtime_v0005
```

7. 次のように入力して、ダウンロードを実行します。

```
Console#copy tftp file
```

8. プロンプトが表示されたら、次の値を指定します。

- TFTP サーバーの IP アドレス
- ダウンロードするファームウェアのタイプとして「2」（構成ファイルではなくオペレーションコードであることを示す）
- 新しいオペレーションコードを含むソースファイルの名前
- スイッチにコピーされる新しいオペレーションコードに付ける名前

```
Console#copy tftp file

TFTP server ip address: 129.156.223.5
Choose file type:
 1. config: 2. opcode: <1-2>: 2
Source file name: SunFireB1600-switch-v1.0.0.10.flash
Destination file name: runtime_v10010
-Write to FLASH Programming.
/Write to FLASH finish.
Success.

Console#
```

スイッチにファームウェアをダウンロードする方法については、『Sun B1600 ブレードシステムシャーシスイッチ管理者マニュアル』（817-1893）の「copy」コマンドの説明を参照してください。

9. 新しいファイルがスイッチのフラッシュメモリーに格納されたことを確認します。
次のように入力します。

```
Console#dir
          file name      file type startup size (byte)
-----
          diag_v0073 Boot-Rom image      Y      114228
          runtime_v0007 Operation Code    Y      1018048
          runtime_v10010 Operation Code   N      1018056
          Factory_Default_Config.cfg     Config File    Y        2574
-----
                                Total free space:  4980736
```

10. 新しいファームウェアをスイッチのデフォルトの起動イメージに設定します。

```
Console#configure
Console(config)#boot system opcode runtime_v10010
Console(config)#end
```

11. 次のように入力して、スイッチをリセットします。

```
Console#reload
System will be restarted, continue <y/n>? y
```

12. スイッチがリセットされたら、再度スイッチにログインし、スイッチで新しいオペレーションコードが使用されていることを確認します。

次のように入力します。

```
Console#show version
Unit1
Serial number :
Service tag :
Hardware version :r0b
Number of ports :24
Main power status :up
Redundant power status :not present
Agent(master)
Unit id :1
Loader version :0.0.6.5
Boot rom version :0.0.7.3
Operation code version :1.0.0.10
```

- 手順 1 ～手順 12 を繰り返して、シャーシのもう一方のスイッチのオペレーションコードをアップグレードします。

第11章

障害追跡

この章は、次の節で構成されています。

- 11-2 ページの 11.1 節「概要」
- 11-2 ページの 11.2 節「問い合わせ前の確認事項」
- 11-3 ページの 11.3 節「サンのサポート技術者に提供する情報の収集」

11.1 概要

この章では、Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシで基本的な障害追跡を行う方法について説明します。また、ご購入先に問い合わせる場合に、サンの技術者に提供する必要がある情報を収集する方法についても説明します。

地域のサポートセンターへの問い合わせ方法については、ご購入先にお問い合わせください。

11.2 問い合わせ前の確認事項

サンの技術者に問い合わせる前に、次の事項を確認してください。

- すべての電源ケーブルおよびネットワークケーブル、シリアルケーブルがコネクタに正しく接続されていて、これらすべてが適切な装置に接続されていること。
- すべてのケーブルがコネクタに正しくピン接続されていること。各コネクタのピン割り当てを確認する方法については、『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシハードウェア設置マニュアル』を参照してください。
- ブレードシステムシャーシのすべてのコンポーネントに、接続先のサブネットに適したネットマスクおよびデフォルトゲートウェイが設定されていること。
- IP アドレスが必要なすべてのコンポーネントに IP アドレスが正しく設定されていること。
- すべての VLAN が正しく設定されていること。
- スイッチが動作していること。これは、コンソールにログインすることで確認できます。スイッチが動作していない場合は、ログインできません。
- スイッチまたはブレードのコンソールにログインしていないこと。#. エスケープシーケンスを入力して、sc> プロンプトに戻るかどうかを確認してください。
- スイッチで使用しているポートがすべて使用不可であること。

また、状況に応じて次の確認を行ってください。

- シリアル接続でシステムコントローラにアクセスする場合は、ボーレート (9600) およびパリティ設定 (なし)、ストップビット (1)、データビット (8) が正しく設定されているかどうかを確認してください。
- telnet 接続でシステムコントローラにアクセスできない場合は、シリアル接続でログインし、showsc コマンドを実行して telnet インタフェースが使用可能かどうかを確認してください。telnet インタフェースが使用不可である場合は、setupsc コマンドを実行し、プロンプトが表示されたら telnet インタフェースを使用可能にします。

- 管理ネットワークからシステムコントローラにアクセスできない場合は、管理ネットワークのケーブルがスイッチ/システムコントローラの NETMGT ポートに正しく接続されているかどうかを確認してください。2つのシステムコントローラ間はネットワーク接続されません。したがって、管理ネットワークからのネットワークケーブルは、アクセスするシステムコントローラの NETMGT ポートに接続する必要があります。
- VLAN を使用している場合は、スロットから取り外したブレードを元に戻すときには、そのスロットが適切であるかどうかを確認してください。ある VLAN 用のサーバーブレードが別の VLAN 用に設定されたポートに挿入されている場合があります。
- タグの付いた VLAN を使用している場合は、サーバーブレードのインタフェースに適切な名前が付けられているかどうかを確認してください。インタフェースの命名方法については、『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシソフトウェア設定マニュアル』を参照してください。

11.3 サンのサポート技術者に提供する情報の収集

この節では、サンの技術者が問題点を診断および修正するために役立つ情報を収集する方法について説明します。技術者には、この節の後半で説明するコマンドによるシステム出力のほかに、動作に異常があるシャーシ内のコンポーネントに対して ping を実行した結果についても報告してください。ping 操作は、動作に異常があるコンポーネントと同じサブネットにあるワークステーションから実行します。

11.3.1 シャーシ全体に関する情報の収集

次のシステムコントローラコマンドの出力を収集する必要があります。

```
sc>showsc -v
```

```
sc>showplatform -v
```

```
sc>showfru -v ssc0 ssc1
```

```
sc>showfru -v ps0 ps1
```

```
sc>showenvironment -v
```

```
sc>showfru -v sn
```

n には、正しく動作していないブレードのスロット番号を指定します。

また、システムコントローラからの出力を受信するシリアルポートがある場合は、この情報もサンの技術者にとって有益な情報となります。

11.3.2 スイッチに関する情報の収集

次のスイッチコンソールコマンドの出力を収集する必要があります。

```
console#show system
```

```
console#show version
```

```
console#show vlan
```

```
console#show mac-address-table
```

```
console#show bridge-ext
```

```
console#show interface status
```

```
console#show interface switchport
```

```
console#show interface counters
```

```
console#show running-config
```

```
console#show startup-config
```

```
console#show logging flash
```

```
console#show logging ram
```

```
console#show spanning-tree
```

11.3.3 Sun Explorer によるサーバブレードに関する情報の収集

サンのサポート技術者は、正常に動作していないサーバブレードについての問い合わせがあると、Sun Explorer 診断ツールの出力を確認する必要があります。この節では、このツールを入手および実行する方法について説明します。

サーバブレードの予備診断の実行方法については、『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシソフトウェア設定マニュアル』のブレードの設定に関する章を参照してください。

1. サーバブレード、またはサーバブレードからアクセス可能なネットワーク上のワークステーションに Sun Explorer のコピーをダウンロードします。

Explorer ソフトウェアは、次の Web サイトにアクセスして入手してください。

<http://sunsolve.sun.com>

2. sunsolve.sun.com から `SUNWexplo.tar.Z` ファイルをダウンロードして、サーバブレードの `/var/tmp` ディレクトリにコピーします。
3. サーバブレードのコンソールに `root` でログインします。

4. Explorer パッケージを解凍します。

次のように入力します。

```
#cd /var/tmp
#uncompress SUNWexplo.tar.Z
#tar xvf SUNWexplo.tar
```

または、サーバブレードに gzip がインストールされている場合は、次のように入力します。

```
#zcat SUNWexplo.tar.Z | tar xvf -
```

5. Explorer パッケージをサーバブレードに追加します。

```
#pkgadd -d . SUNWexplo
```

6. サーバブレードで Explorer を実行します。

次のように入力します。

```
# /opt/SUNWexplo/bin/explorer
```

7. 次の電子メールアドレスを使用して、Explorer の出力をサンに電子メールで送信します。

- 北中南米
explorer-database-americas@sun.com
- アジアおよび太平洋地域
explorer-database-apac@sun.com
- ヨーロッパ、中東、アフリカ
explorer-database-emea@sun.com

第12章

オプションのハードウェアコンポーネントの交換

この章では、Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシの既存のコンポーネントの交換方法および新しいコンポーネントの取り付け方法について説明します。この章は、次の節で構成されています。

- 12-2 ページの 12.1 節「新しいブレードの取り付け」
- 12-9 ページの 12.2 節「新しい SSC の取り付け」
- 12-16 ページの 12.3 節「新しい電源装置の取り付け」
- 12-23 ページの 12.4 節「新しいシャーシの取り付け」

12.1 新しいブレードの取り付け

この節では、Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシのブレードの取り付けまたは交換手順について説明します。

既存のブレードまたはフィルターパネルは、新しいブレードを取り付ける直前に取り外す必要があります。ブレードスロットを長時間空き状態にしないでください。

12.1.1 既存のブレードを取り外す前に使用不可にする方法

- 取り外すための準備としてブレードを停止して、青色の取り外し可能 LED を点灯させるには、次のように入力します。

```
sc> removefru s/n
```

n には、取り外すブレードが挿入されているスロット番号を指定します。

注 – ブレードで Solaris オペレーティング環境が動作している場合、システムコントローラは Solaris オペレーティング環境を正常な方法で停止してから、ブレードの電源を切ります。

12.1.2 既存のブレードまたはフィルターパネルの取り外し

1. 青色の取り外し可能 LED またはオレンジ色の保守要求 LED が点灯していることを確認します。

注 – いずれかの LED が点灯するまで、ブレードを取り外さないでください。

2. ブレードレバーの正面の底部にある引き出し用のくぼみに指を入れて、ゆっくり引いてロックを外します (図 12-1)。

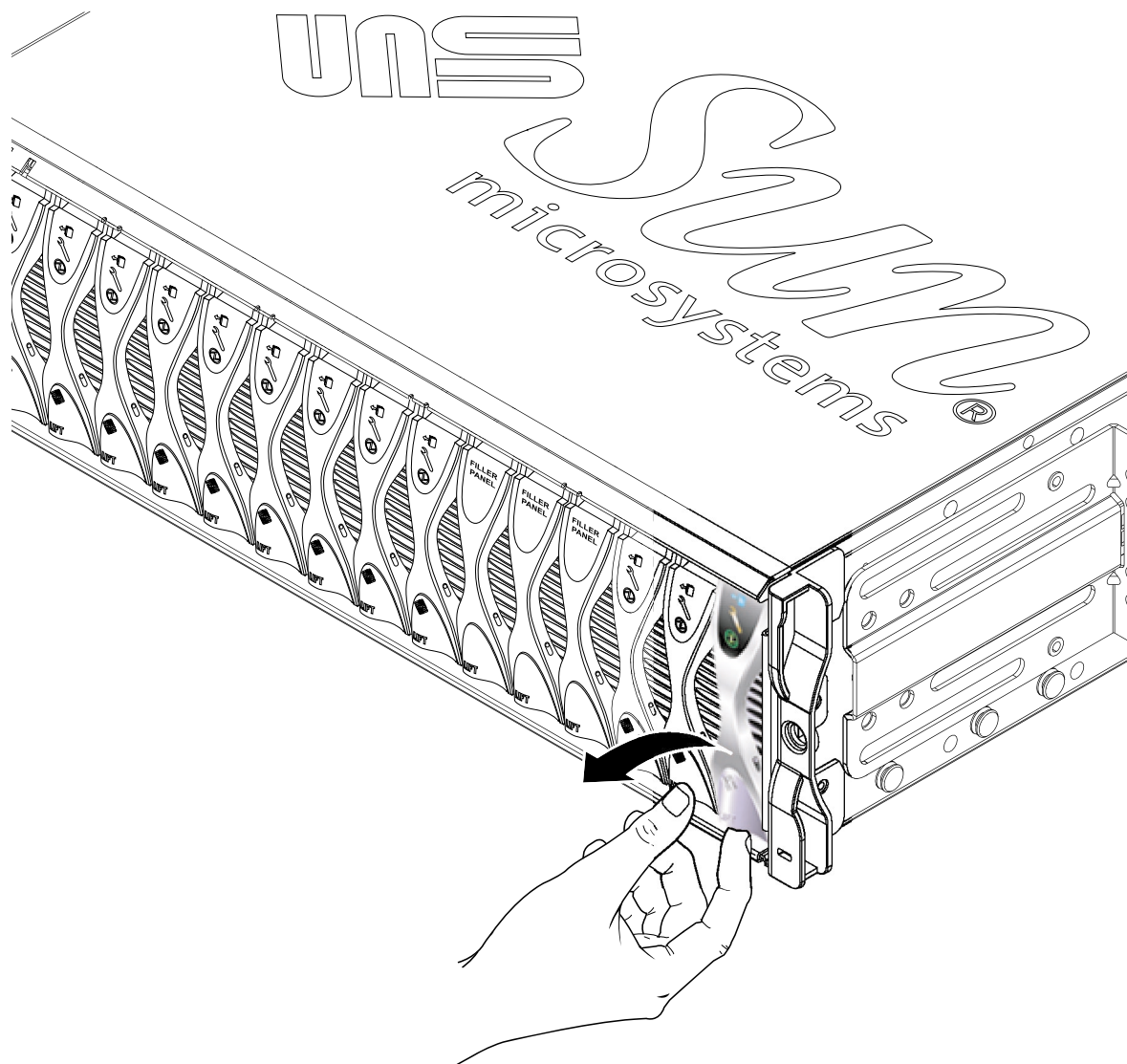


図 12-1 ブレードのロックの解除

3. ブレードレバーを正面側に持ち上げると、レバーが外れて、システムシャーシからブレードが少し排出されます (図 12-2)。

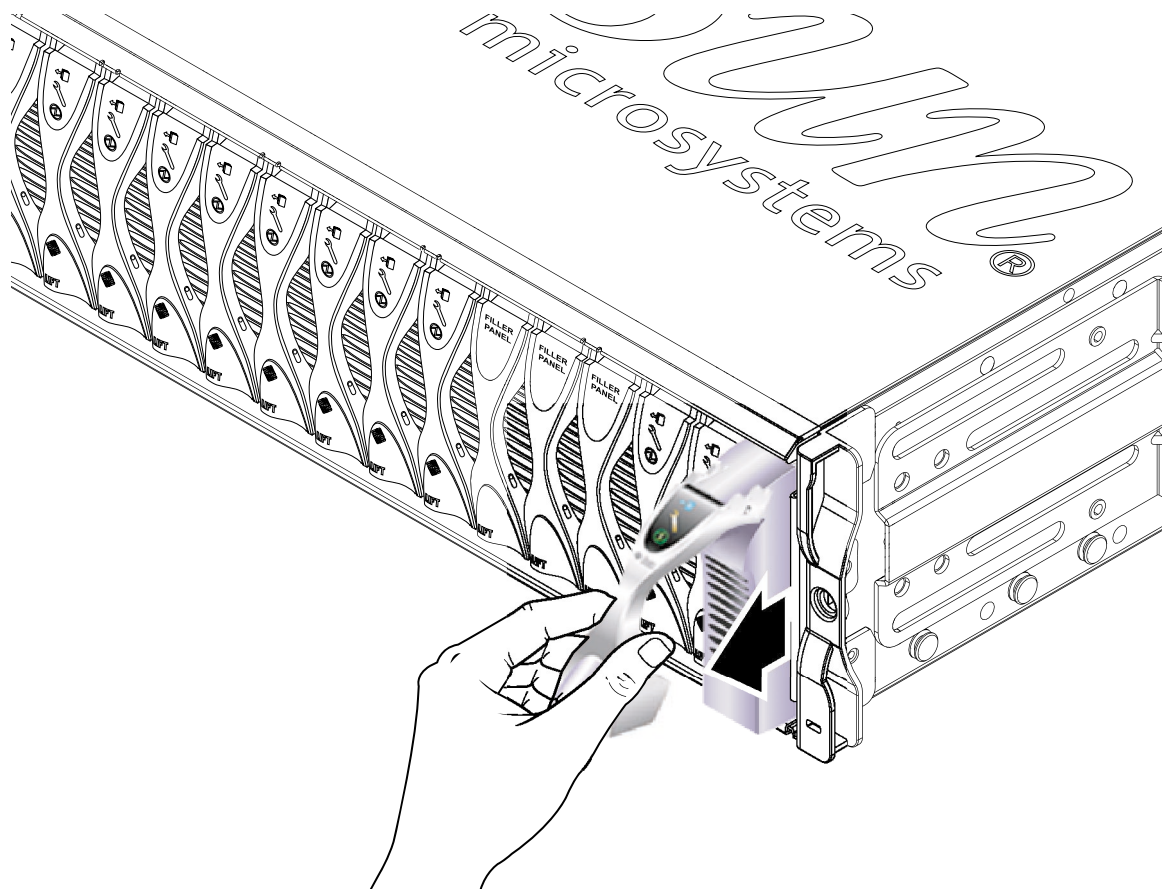


図 12-2 ブレードまたはフィラーパネルのレバーの解除

4. レバーを手前に引いてシステムシャーシからブレードを取り外します (図 12-3)。

もう一方の手でブレードの底部を支えながら、システムシャーシからブレードを完全に取り外します。

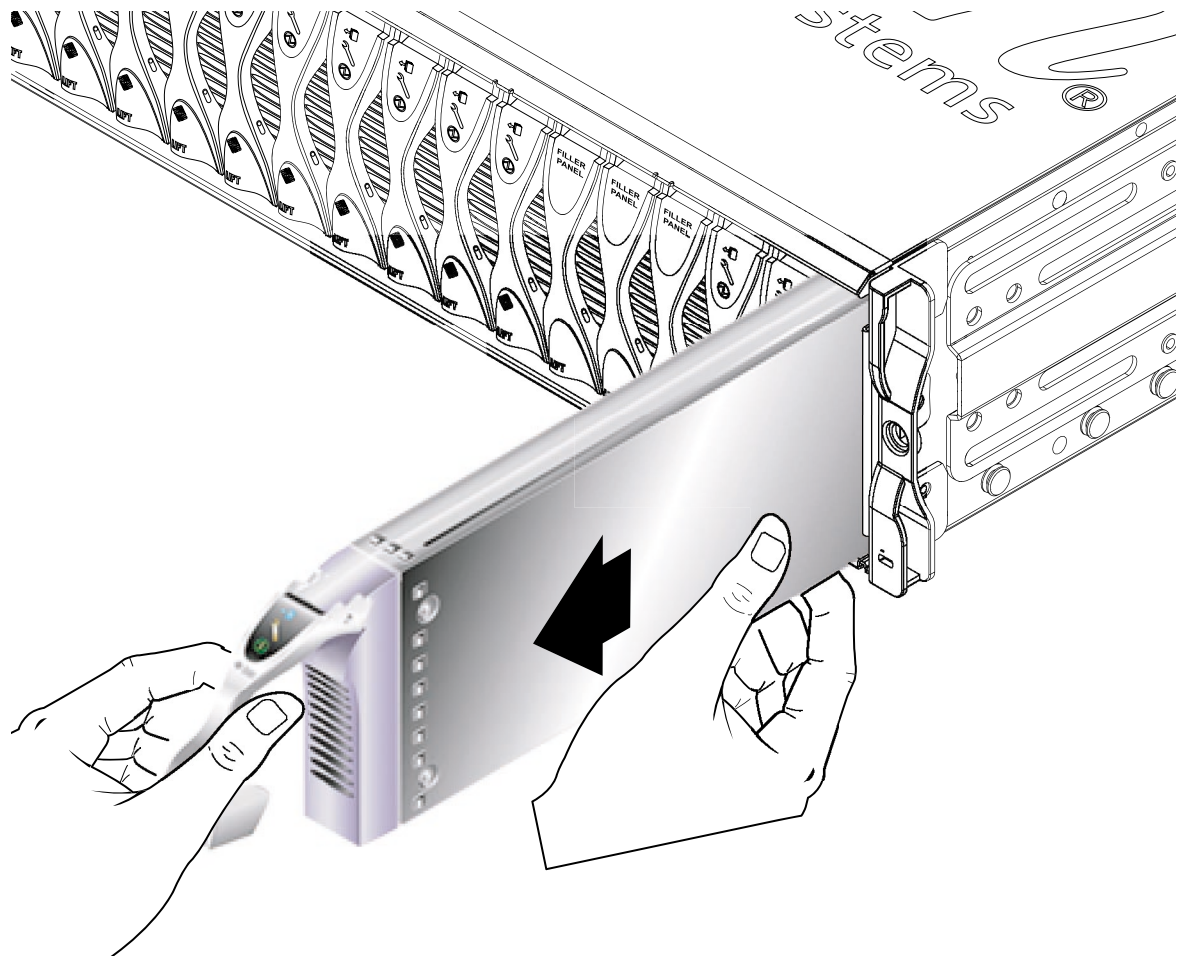


図 12-3 ブレードまたはフィラーパネルの取り外し

5. 空いたスロットにブレードまたはフィラーパネルを取り付けます。

詳細は、12-6 ページの 12.1.3 節「新しいブレードまたはフィラーパネルの取り付け」を参照してください。システムシャーシの電源を入れる前に、16 個のすべてのブレードスロットにブレードまたはフィラーパネルを取り付ける必要があります。空きスロットがあるままの状態にしないでください。



注意 – 空いたスロットがあると、システム内の通気が妨げられ、EMC 基準に適合しなくなるため、すべてのスロットにブレードまたはフィラーパネルを取り付けてください。

12.1.3 新しいブレードまたはフィルターパネルの取り付け

16 個のすべてのブレードスロットにブレードまたはフィルターパネルを取り付ける必要があります。ブレードは、どのスロットにも取り付けることができます。



注意 – 空いたスロットがあると、システム内の通気が妨げられ、EMC 基準に適合しなくなるため、すべてのスロットにブレードまたはフィルターパネルを取り付けてください。

この節では、ブレードの取り付け手順について説明します。フィルターパネルも、同じ手順で取り付けることができます。

1. ブレードを取り付けるスロットからフィルターパネルを取り外します。

詳細は、12-2 ページの 12.1.2 節「既存のブレードまたはフィルターパネルの取り外し」を参照してください。

2. 必要に応じて、ブレードレバーの下部にある引き出し用のくぼみに指を入れてブレードレバーを開き、そのまま正面側に持ち上げて、レバーのロックを外します (図 12-4)。

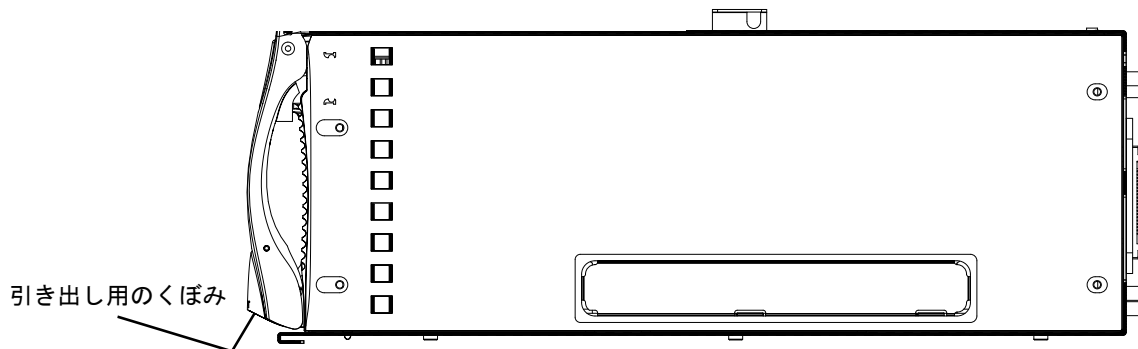


図 12-4 ブレードのロック機構

3. ブレードを空きスロットの位置に合わせます。

ブレードのコネクタがシステムシャーシに向いていて、レバーのヒンジ部分が上になっていることを確認します。もう一方の手でブレードの底部を支えながら、システムシャーシとブレードの位置を合わせます (図 12-5)。

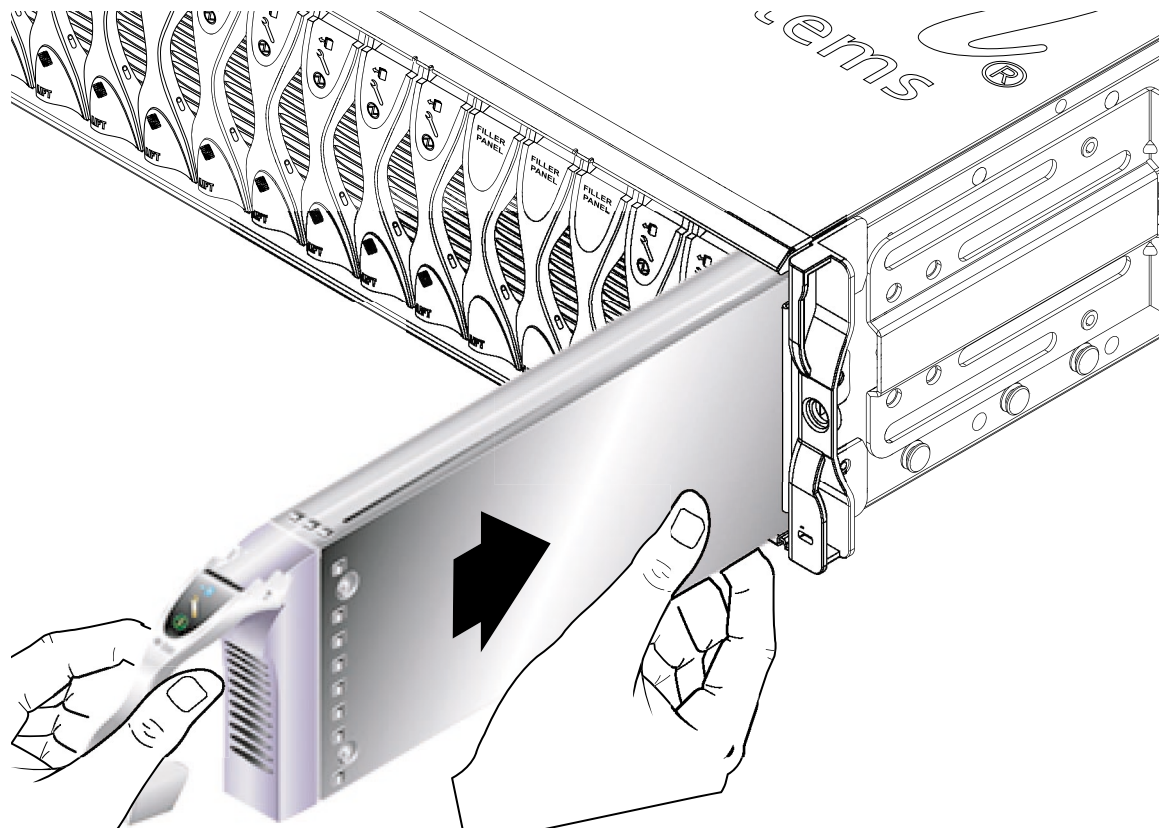


図 12-5 ブレードの位置合わせと挿入

4. 選択したシステムシャーシのスロットにブレードを挿入します (図 12-5)。



注意 – ブレードがシステムシャーシのガイドに正しく載っていることを確認します。ブレードの位置が合っていないと、シャーシのミッドプレーンまたはブレードのコネクタを損傷する場合があります。

5. ブレードをスロットにゆっくりと挿入して、ブレードレバーの上部にあるラッチの耳がシャーシ内に収まるまで押します。

6. ブレードレバーを押し下げて完全に閉じます。完全に閉じると、ラッチが所定の位置に固定されてカチッと音を立てます。

これで、ブレードがシャーシのスロット内のコネクタに接続されます (図 12-6)。コネクタに接続されると、ブレードの LED が数回点滅します。

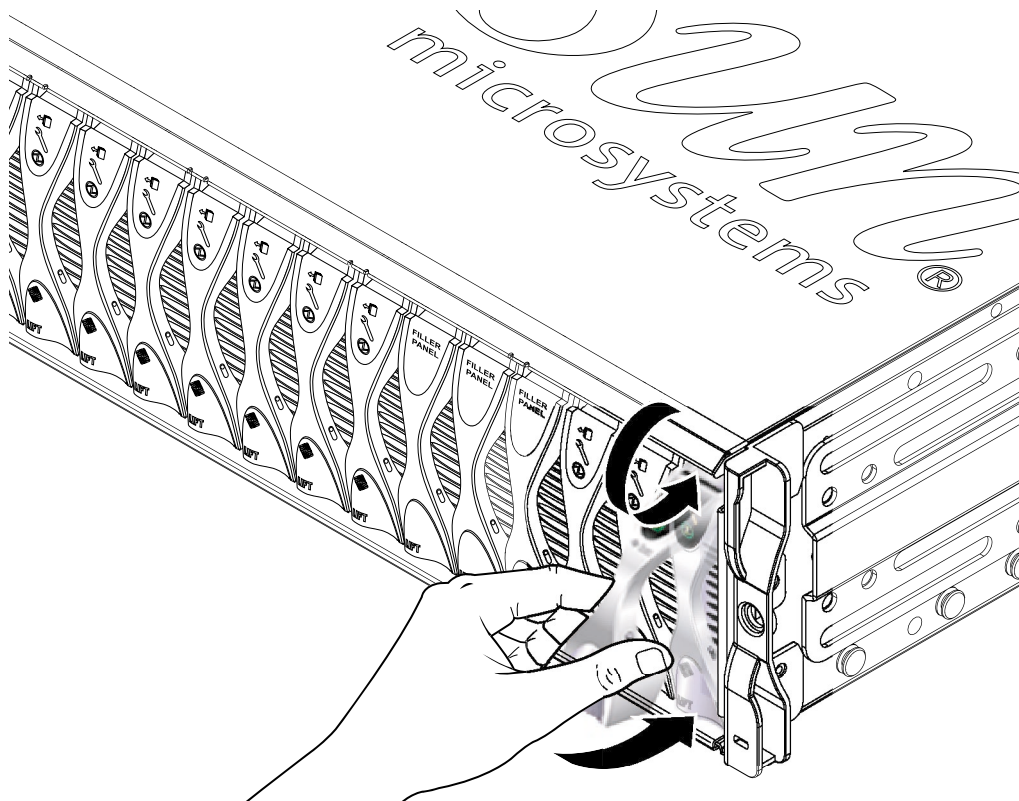


図 12-6 ブレードレバーのロック

12.1.4 取り付けたブレードの起動

1. システムコントローラの `sc>` プロンプトで、次のように入力してサーバーブレードのコンソールにアクセスします。

```
sc> console s11
```

n には、挿入したブレードのスロット番号を指定します。

- 『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシソフトウェア設定マニュアル』を参照して、ブレードの電源投入およびオペレーティング環境の読み込みを行います。

12.2 新しい SSC の取り付け

この節では、システムシャーシ内の SSC を交換する手順について説明します。シャーシのミッドプレーンと SSC との連携による、シャーシ全体のシステムコントローラのログイン情報およびサーバーブレードのホスト ID 情報を保持する方法については、12-30 ページの 12.5 節「交換用のシャーシまたは SSC のユーザーログインおよびホスト ID 情報」を参照してください。

12.2.1 取り外す SSC を使用不可にする方法

- 取り外す SSC に含まれるシステムコントローラがスタンバイシステムコントローラであることを確認します。

sc> プロンプトで次のように入力します。

```
sc> setfailover
SSC0 is in Active Mode
SSC1 is in Standby Mode.
Are you sure you want to failover to SSC1?
All connections and user sessions will now be lost on SSC0 (y/n)?
```

- 取り外す SSC がスタンバイ SSC でない場合は、強制的にスタンバイ SSC に切り替えます。

プロンプトへの応答として、n を入力します。

- スタンバイ SSC を取り外す前に、次のように入力して、SSC を使用不可にし、青色の取り外し可能 LED を点灯させます。

```
sc> removefru ssc#
```

n には、どの SSC を取り外すかによって、0 または 1 を指定します。

12.2.2 SSC の取り外し

1. 青色の取り外し可能 LED またはオレンジ色の保守要求 LED が点灯していることを確認します。

注 - いずれかの LED が点灯するまで、SSC を取り外さないでください。

2. SSC からすべてのネットワークケーブルおよび管理ケーブルを外し、必要に応じて、ケーブル管理システムからケーブルを外します。

3. 緑色の SSC 取り外しレバーを握ってロックを外し、レバーを手前に引いてシステムシャーシから SSC を切り離します (図 12-7)。

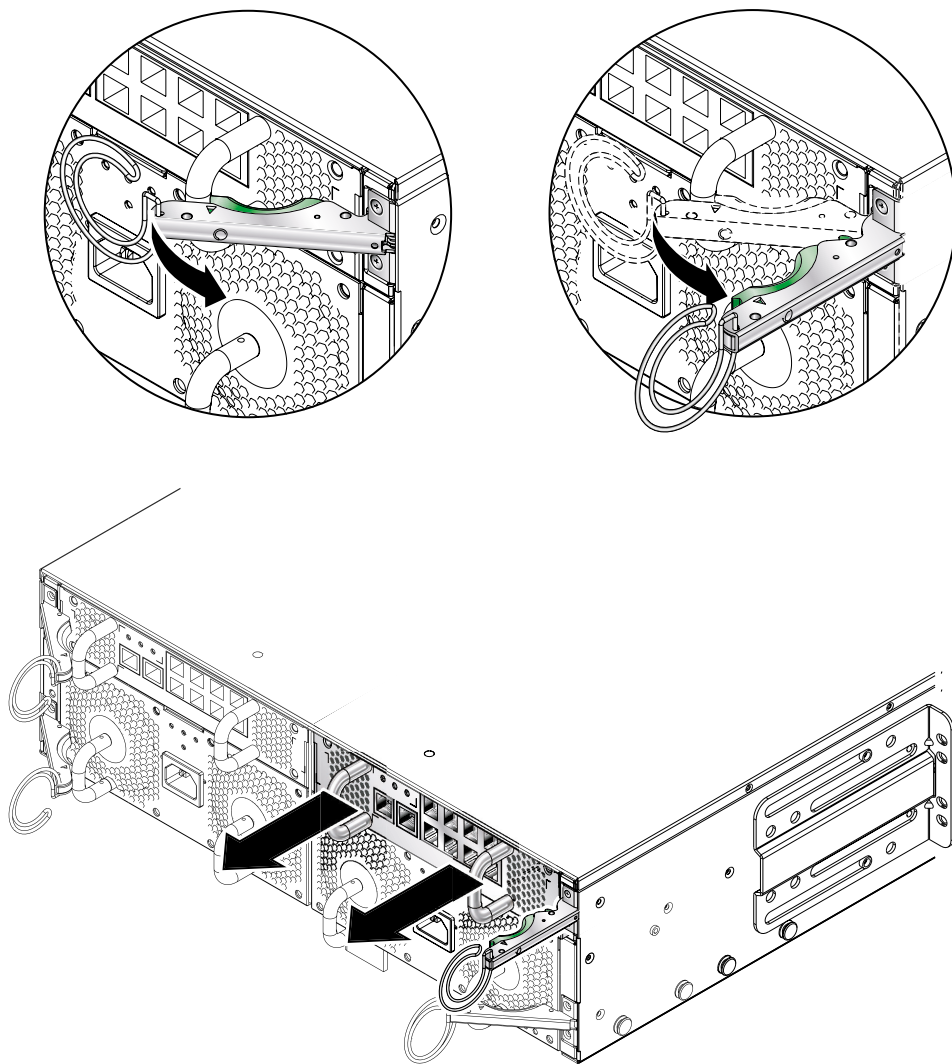


図 12-7 SSC の取り外しレバー

4. 取り外しレバーが完全に開いて、SSC モジュールを引き出す妨げになっていないことを確認します (図 12-7)。

5. SSC の背面に縦方向に付いているハンドルを引いて、システムシャーシから SSC を取り出します (図 12-8)。

SSC の底部を手で支えながら、システムシャーシから引き出します。

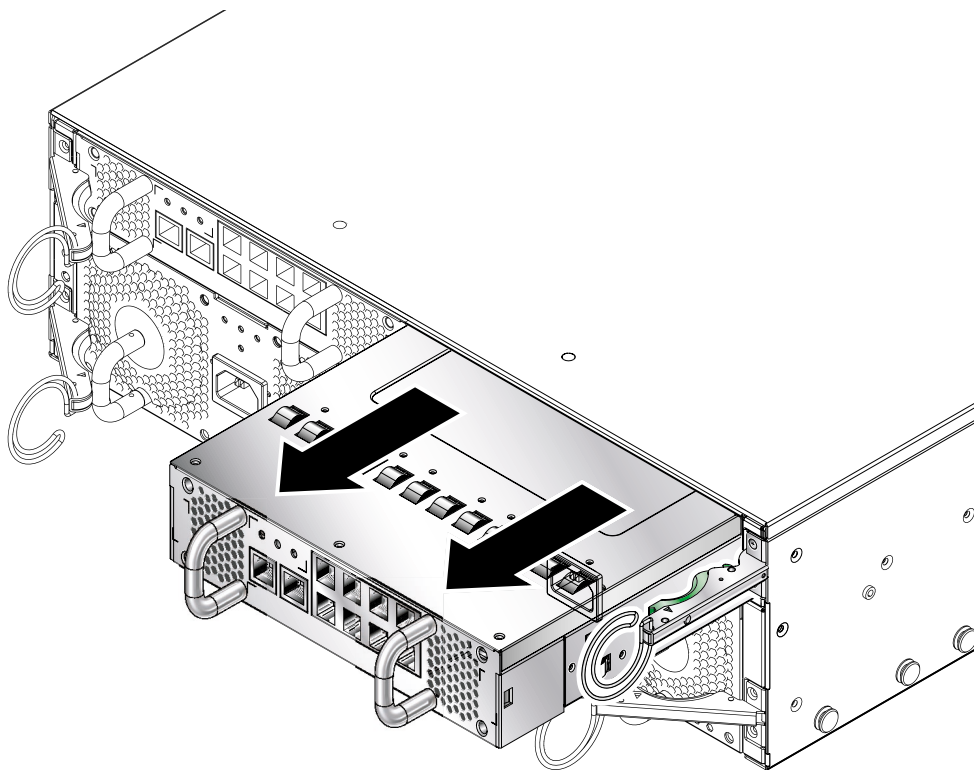


図 12-8 SSC のシステムシャーシからの取り外し

12.2.3 新しい SSC の取り付け

1. SSC をシステムシャーシの位置に合わせます。

SSC のコネクタをシステムシャーシに向け、コネクタが SSC の下半分になるように位置を合わせます。

2. シャーシの取り外しレバーが完全に開いて、開口部をふさいでいないことを確認します (図 12-9)。

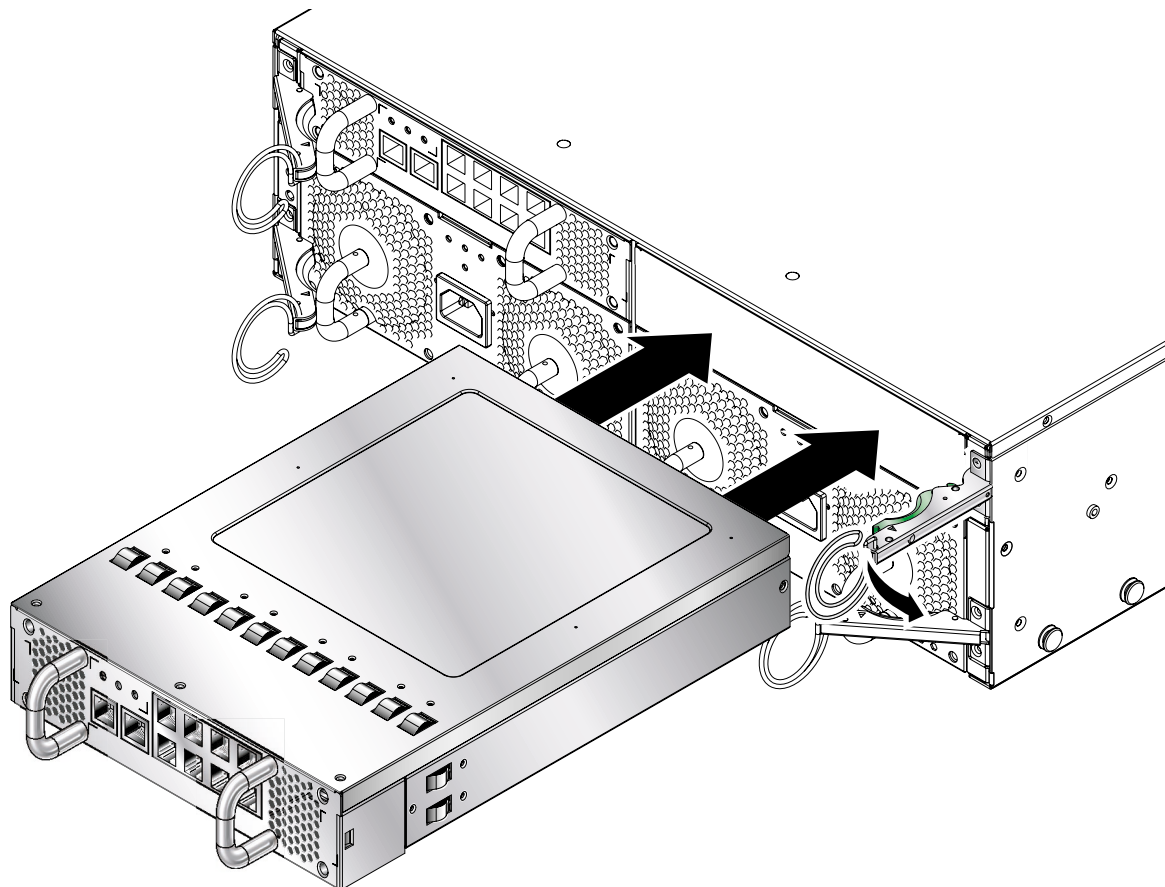


図 12-9 SSC を挿入する前の位置合わせ

3. SSC をシャーシの空きスロットにスライドさせます。

取り外しレバーを閉じることができる位置まで、SSC をスロットに押し込みます (図 12-10)。

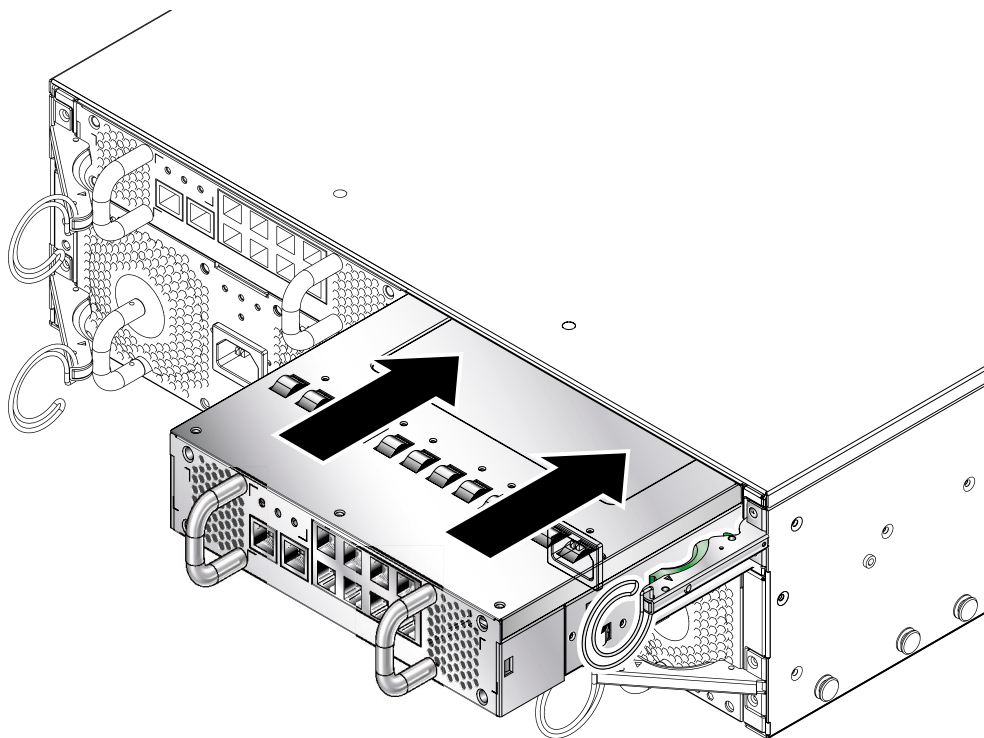


図 12-10 SSC の挿入

4. 取り外しレバーを閉じて、取り付け作業を完了します。

取り外しレバーのラッチが SSC の引き出しハンドルに固定されていることを確認します。レバーを固定することで、SSC がシステムシャーシに接続されます (図 12-11)。

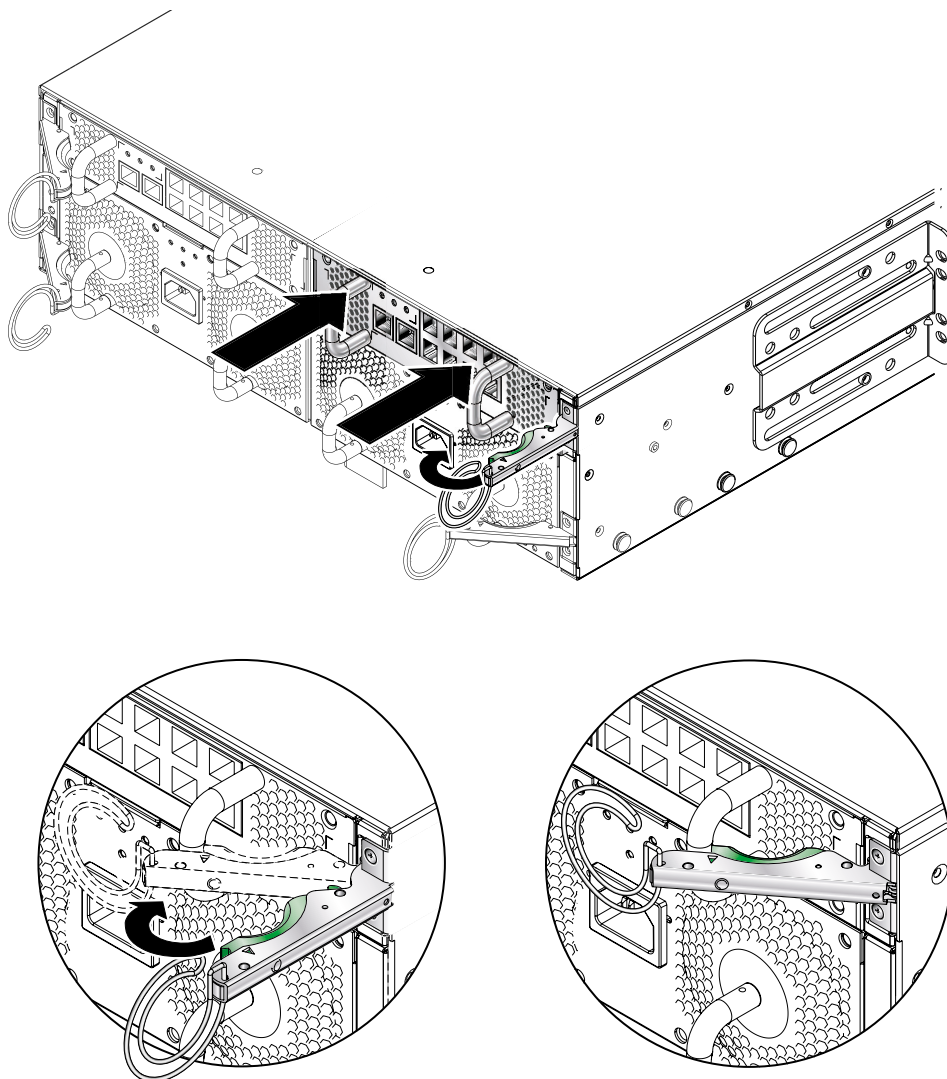


図 12-11 SSC の取り外しレバーのロック

5. すべてのネットワークケーブルおよび管理ケーブルを SSC に再接続し、必要に応じて、ケーブル管理システムにケーブルを接続します。

6. 緑色の動作状態 LED が点灯していることを確認します。
7. アクティブな SSC にログインして、新しいスタンバイ SSC に電源を入れます。
sc> プロンプトで、次のように入力します。

```
sc> poweron sscn
```

n には、SSC0 または SSC1 のどちらかを交換したかによって、0 または 1 を指定します。

12.3 新しい電源装置の取り付け

この節では、Sun Fire B1600 システムシャーシの電源装置 (PSU) を交換する手順について説明します。



注意 – 動作時の温度を適正な範囲に保つため、Sun Fire B1600 システムシャーシには 2 台の PSU が必要です。PSU を取り外してから 10 分以内に新しい PSU を挿入してください。10 分以内に挿入しないと、サーバーブレードが過熱する危険があります。PSU を取り外すと、白色のロケータが点滅し始めます。白色のロケータは、新しい PSU を挿入するまで点滅し続けます。



注意 – PSU の取り付け作業が完了するまで、IEC 電源コードは PSU に接続しないでください。

12.3.1 既存の PSU を取り外す前に使用不可にする方法

1. PSU を取り外す前に、sc> プロンプトで次のように入力して、PSU を使用不可にします。

```
sc> removefru psn
```

n には、PSU 0 または PSU 1 のどちらを取り外すかによって、0 または 1 を指定します。

12.3.2 既存の PSU の取り外し

1. 青色の取り外し可能 LED またはオレンジ色の障害 LED が点灯していることを確認します。

注 - いずれかの LED が点灯するまで、PSU を取り外さないでください。

2. PSU から電源ケーブルを外し、必要に応じて、ケーブル管理システムからケーブルを外します。

3. 緑色の PSU 取り外しレバーを握ってロックを外し、レバーを手前に引いてシステムシャーシから PSU を切り離します (図 12-12)。

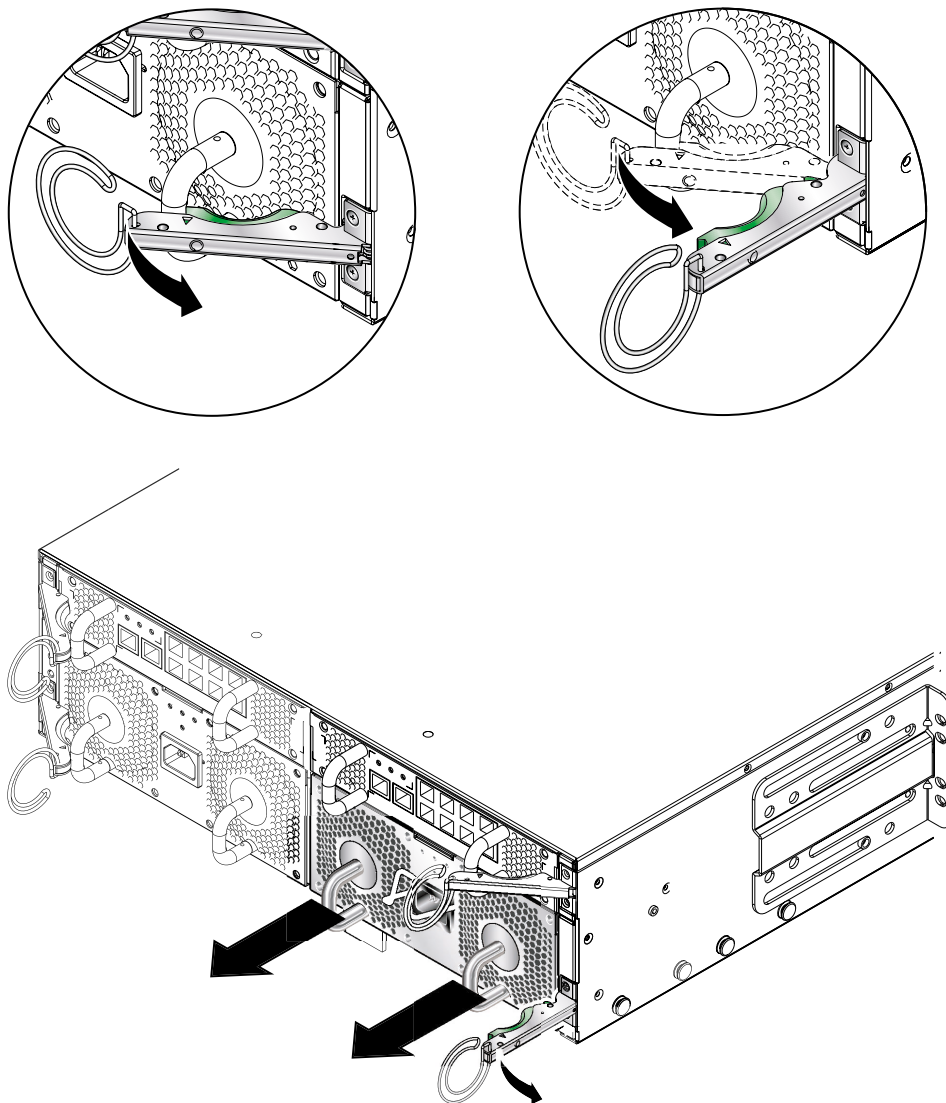


図 12-12 PSU の取り外しレバー

4. 取り外しレバーが完全に開いて、PSU モジュールを引き出す妨げになっていないことを確認します。

5. PSU の背面に縦方向に付いているハンドルを引いて、システムシャーシから PSU を取り出します (図 12-13)。

PSU の底部を手で支えながら、システムシャーシから引き出します。

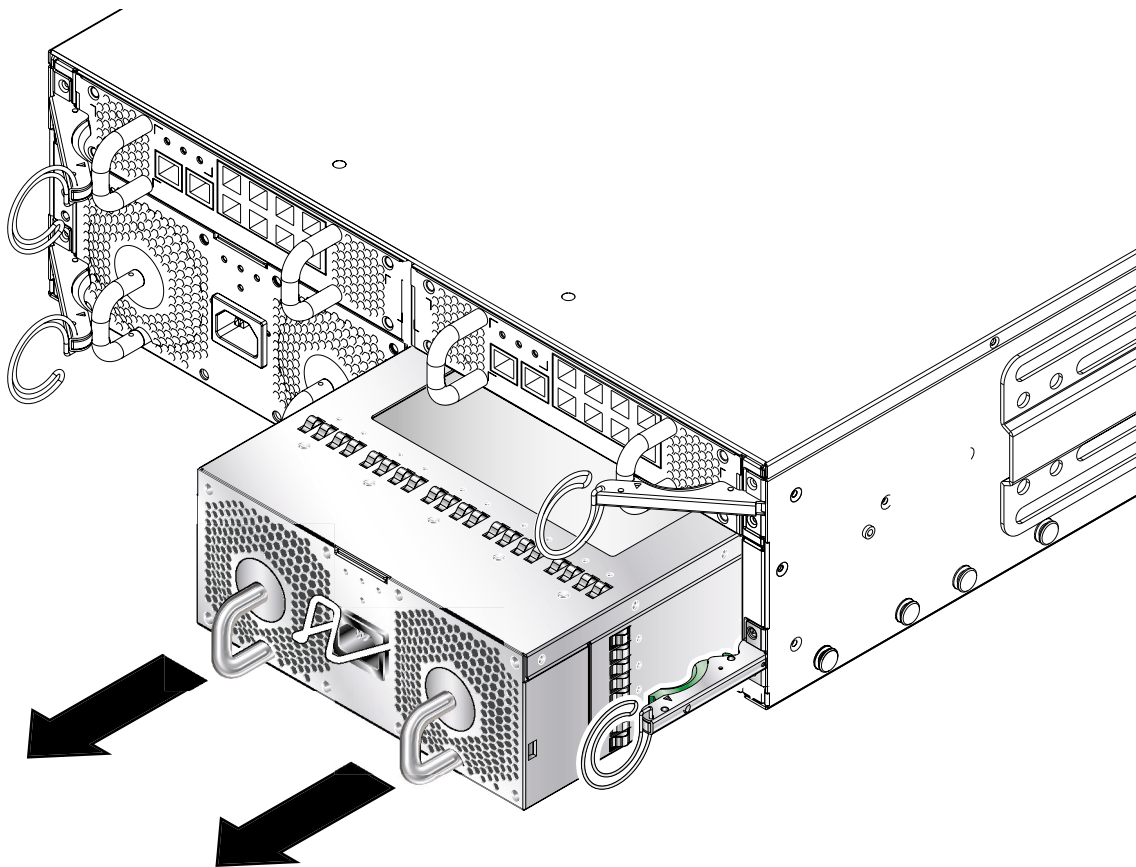


図 12-13 PSU のシステムシャーシからの取り外し



注意 – PSU を取り外すと、シャーシの正面パネルおよび背面パネルの白色のロケータが点滅し始めます。PSU を取り外してから 10 分以内に新しい PSU を挿入してください。10 分以内に挿入しないと、シャーシ内のサーバーブレードが過熱する危険があります。新しい PSU を挿入すると、ロケータの点滅が停止します。

12.3.3 新しい PSU の取り付け



注意 – 動作時の温度を適正な範囲に保つために、Sun Fire B1600 システムシャーシには 2 台の PSU が必要です。



注意 – IEC 電源コードが接続された状態で PSU を取り付けないでください。電源コードは、PSU を取り付けただ後で接続してください。

1. PSU をシステムシャーシの空き PSU スロットの位置に合わせます。
PSU のコネクタをシステムシャーシに向け、コネクタが PSU の下半分になるように位置を合わせます。
2. シャーシの取り外しレバーが完全に開いて、シャーシ内の PSU スロットの開口部をふさいでいないことを確認します。

3. PSU をシャーシの空き PSU スロットにスライドさせます。

取り外しレバーを閉じることができる位置まで、PSU をスロットに押し込みます (図 12-14)。システムシャーシ内のシステムフラップが持ち上がるまで、しっかり押し込む必要があります。

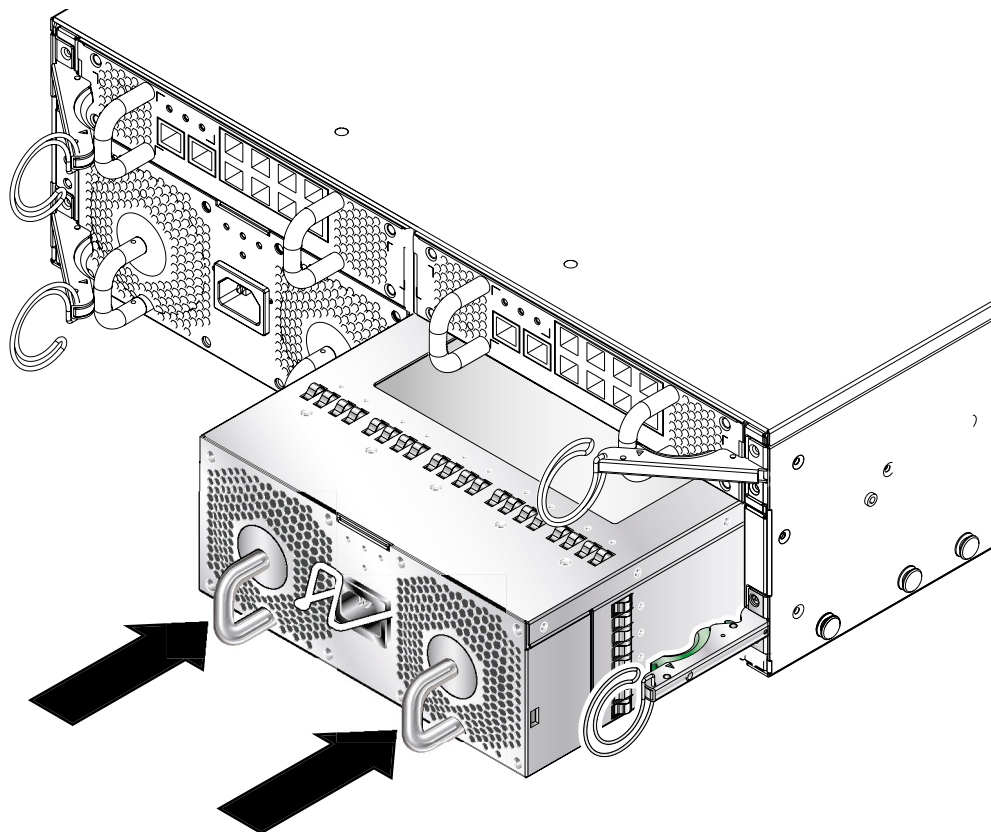


図 12-14 PSU の挿入

4. 取り外しレバーを完全に閉じて、取り付け作業を完了します。

取り外しレバーが PSU の引き出しハンドルに固定されていることを確認します。レバーを固定することで、PSU がシステムシャーシに接続されます (図 12-15)。

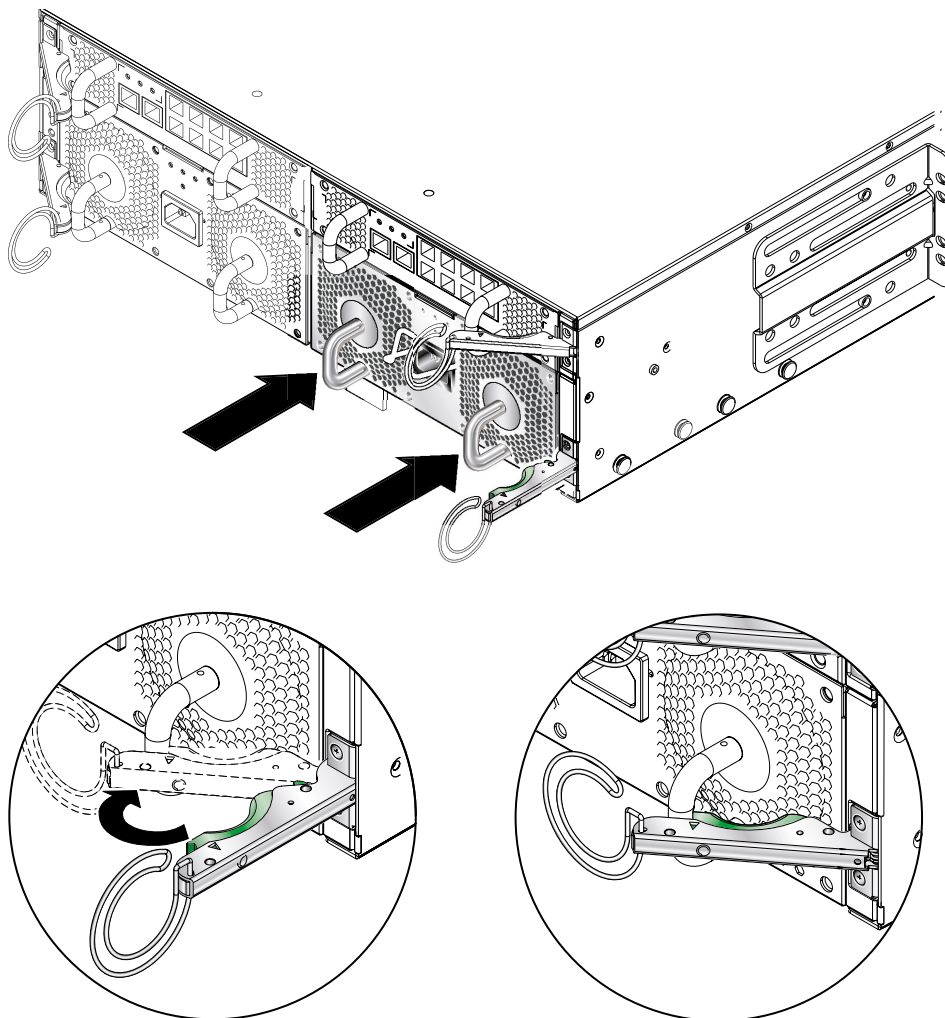


図 12-15 PSU の取り外しレバーのロック

5. PSU に電源ケーブルを接続します。

6. 緑色の動作状態 LED が点灯していることを確認します。

12.4 新しいシャーシの取り付け

この節では、シャーシを停止してコンポーネントを取り外し、そのシャーシをラックから取り外して新しいシャーシをラックに取り付ける方法について説明します。また、シャーシから取り外したコンポーネントを新しいシャーシに取り付ける方法についても説明します。

この節は、次の項で構成されています。

- 12-23 ページの「すべてのコンポーネントの停止」
- 12-24 ページの「シャーシのコンポーネントの取り外し」
- 12-25 ページの「4 ポストラックからのシステムシャーシの取り外し」
- 12-26 ページの「2 ポストラックからのシステムシャーシの取り外し」
- 12-29 ページの「ラックへの新しいシステムシャーシの取り付け」
- 12-29 ページの「新しいシステムシャーシの取り付け」

注 - 新しいシャーシでは、以前使用していたシャーシと同じホスト ID およびユーザーログイン情報が使用されます。別の (事前設定された) シャーシで使用していた SSC のログイン情報およびサーバーブレードのホスト ID 情報に対する、新しいシャーシのミッドプレーンの動作については、12-30 ページの 12.5 節「交換用のシャーシまたは SSC のユーザーログインおよびホスト ID 情報」を参照してください。

12.4.1 すべてのコンポーネントの停止

- 電源を停止できるシャーシのすべてのコンポーネント (すべてのブレードおよびスタンバイ SSC、両方のスイッチ) を停止するには、次のように入力します。

```
sc> poweroff ch
```

12.4.2 シャーシのコンポーネントの取り外し



注意 – システムシャーシのアース接続は、PSU によってのみ確実に行うことができます。ほかのコンポーネントをすべて取り外してから、PSU を取り外してください。

シャーシから SSC およびサーバーブレードを取り外す前に、これらの位置を書き留めておいてください。新しいシャーシでは、対応する格納装置およびブレードスロットにこれらを取り付ける必要があります。

システムコンポーネントは、次の順序で取り外します。

1. ブレードおよびフィルターパネル。詳細は、12-2 ページの「既存のブレードまたはフィルターパネルの取り外し」を参照してください。
2. SSC。詳細は、12-10 ページの「SSC の取り外し」を参照してください。
3. PSU。詳細は、12-17 ページの「既存の PSU の取り外し」を参照してください。

12.4.3 4 ポストラックからのシステムシャーシの取り外し

1. システムシャーシの脱落防止機構付きねじを緩めます。
2. システムシャーシをスライドさせてラックから取り出します (図 12-16)。

シャーシのレール上の留め具がラックにあたる位置で、システムシャーシは止まります。ラックからシステムを完全に取り出すには、留め具を押し下げることがあります。

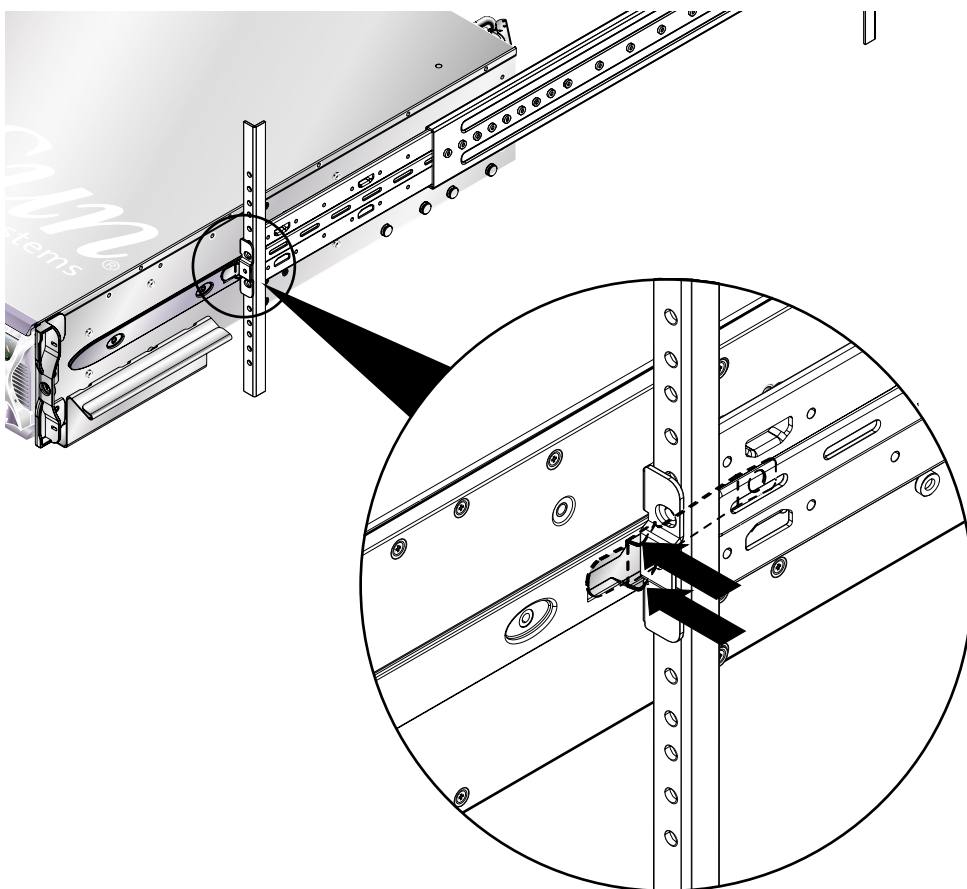


図 12-16 スライド留め具の解除

12.4.4 2ポストトラックからのシステムシャーシの取り外し

1. システムシャーシおよびラックの背面留め具を外します (図 12-17)。

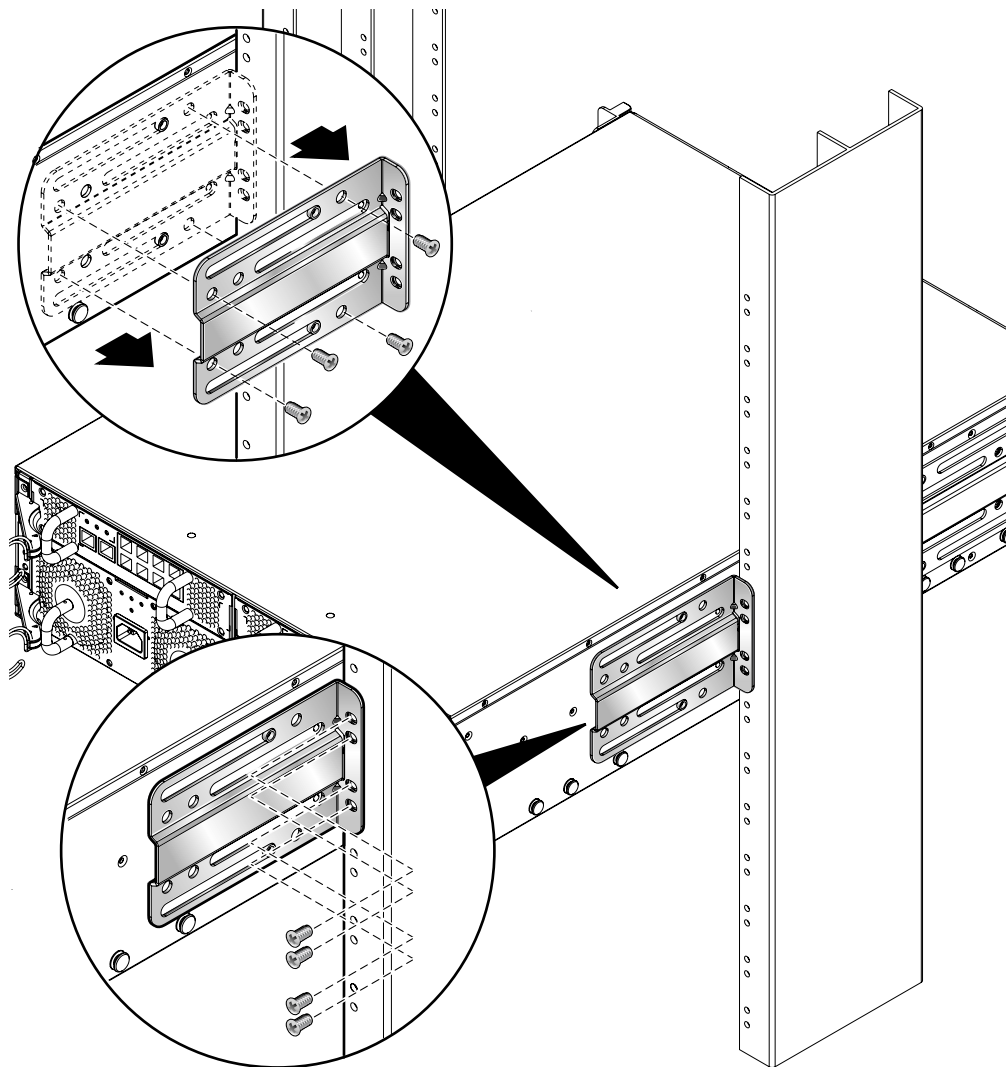


図 12-17 背面留め具の取り外し

2. ラックの正面留め具を外します (図 12-18)。

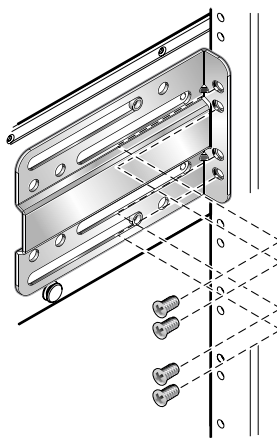


図 12-18 ラックの正面留め具の取り外し

3. システムシャーシの正面のラック留め具を外します (図 12-19)。

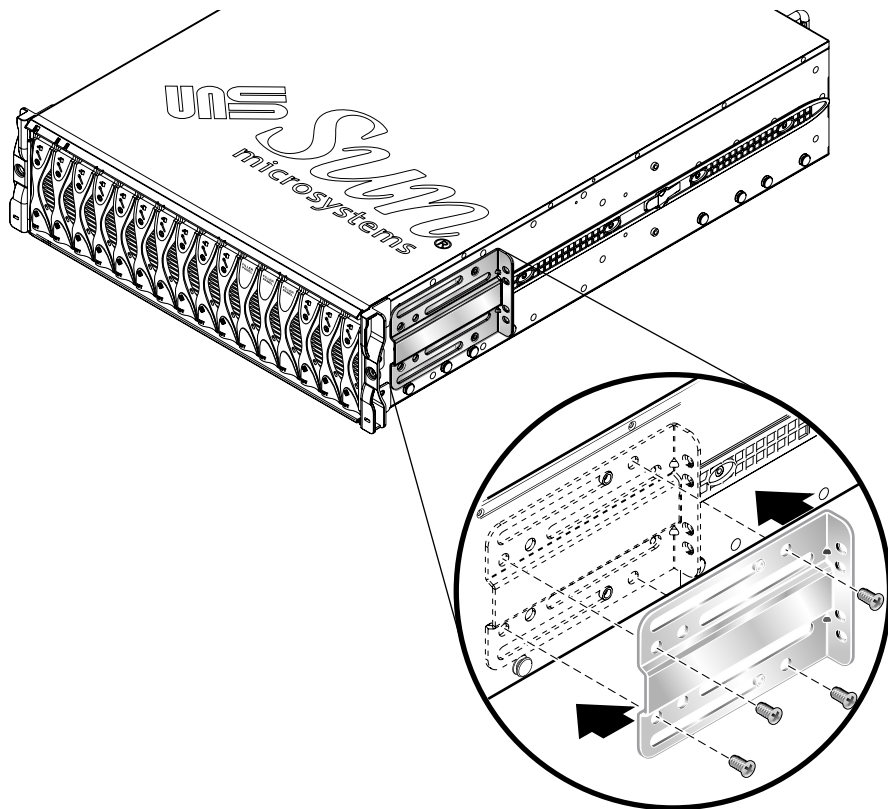


図 12-19 システムシャーシの正面のラック留め具の取り外し

12.4.5 ラックへの新しいシステムシャーシの取り付け

ラックへのシャーシの取り付け方法については、『Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシハードウェア設置マニュアル』(Part No. 817-1898)を参照してください。このマニュアルには、次のラックへの取り付け方法が説明されています。

- 19インチ 4 ポストラック
- 19インチ 2 ポストラック
- 23インチ 4 ポストラック
- 23インチ 2 ポストラック

12.4.6 新しいシステムシャーシの取り付け

ラックへの新しいシャーシの取り付け作業が完了したら、システムコンポーネントを取り付けることができます。SSC およびサーバーブレードは、以前使用していたシャーシ内での取り付け位置に対応する格納装置およびブレードスロットに取り付けてください。

シャーシのコンポーネントは、次の順序で取り付けます。

1. PSU。詳細は、12-16 ページの「新しい電源装置の取り付け」を参照してください。



注意 – システムシャーシのアース接続は、PSU によってのみ確実に行うことができます。したがって、ほかのコンポーネントを取り付ける前に、PSU を取り付けて電源ケーブルを接続してください。SSC を取り付けてケーブルを接続したあとで、PSU を取り付けて外部電源装置に接続すると、シャーシ内に残留電流が存在する場合があります。

2. SSC。詳細は、12-9 ページの「新しい SSC の取り付け」を参照してください。
3. ブレードおよびフィルターパネル。詳細は、12-2 ページの「新しいブレードの取り付け」を参照してください。

12.5 交換用のシャーシまたは SSC のユーザーログインおよびホスト ID 情報

シャーシまたは SSC を交換する場合は、この説明を読んでください。

出荷時のデフォルト設定のままの新しい SSC を、すでに使用しているシャーシに取り付けると、新しい SSC は現在ミッドプレーンに格納されているユーザーログイン情報 (システムコントローラ) およびホスト ID 情報 (サーバーブレード) を引き継ぎます。

逆に、ユーザーログインおよびホスト ID が設定されていない新しいシャーシに、以前から使用している SSC を取り付けると、ミッドプレーンはシステムコントローラからユーザーログインおよびホスト ID 情報を取得します。

SSC をシャーシに取り付けたときに、SSC とシャーシの両方にユーザーログインおよびホスト ID 情報があり、そのいずれかまたは両方が SSC とシャーシ間で異なっていると、どちらの情報が引き継がれるかを予測することが困難になります。このときスタンバイシステムコントローラが動作していれば調停の役割を果たします。スタンバイシステムコントローラは、自身のユーザーログインおよびホスト ID 情報を、アクティブシステムコントローラの SSC が保持している情報、およびミッドプレーンに格納されている情報と比較します。スタンバイシステムコントローラのホスト ID 情報が、アクティブな SSC またはミッドプレーンに格納されている情報のいずれかと一致した場合は、その情報が優先されます。同様に、スタンバイシステムコントローラのユーザーログイン情報が、アクティブな SSC またはミッドプレーンに格納されているユーザーログイン情報のいずれかと一致した場合は、その情報が優先されます。各情報について、スタンバイシステムコントローラの情報が、アクティブな SSC およびミッドプレーンの情報のどちらとも異なる場合は、ミッドプレーンの情報が優先されます。

付録 A

LED の意味

この付録では、Sun Fire B1600 ブレードシステムシャーシの正面および背面にある LED によって示されるさまざまな状態の意味について説明します。この付録は、次の節で構成されています。

- A-2 ページの A.1 節「LED の見方」

A.1 LED の見方

個々のシステムコンポーネントの LED によって、システムが正常に動作しているかどうかを判断できます。SSC および電源装置、サーバーブレードの LED を定期的に監視することをお勧めします。

LED には、消灯または点灯の状態、場合によってはゆっくり点滅または点滅の状態があります。障害 LED が点灯している場合は、コンポーネントに障害が発生したことを示します。障害とは、正常に動作する上で容認できないすべての状態を指します。障害 LED が点灯した場合は、ただちに障害を取り除く処置を実行する必要があります。

ホットスワップ対応コンポーネントは、青色の取り外し可能 LED が点灯している場合にだけ取り外すことができます。

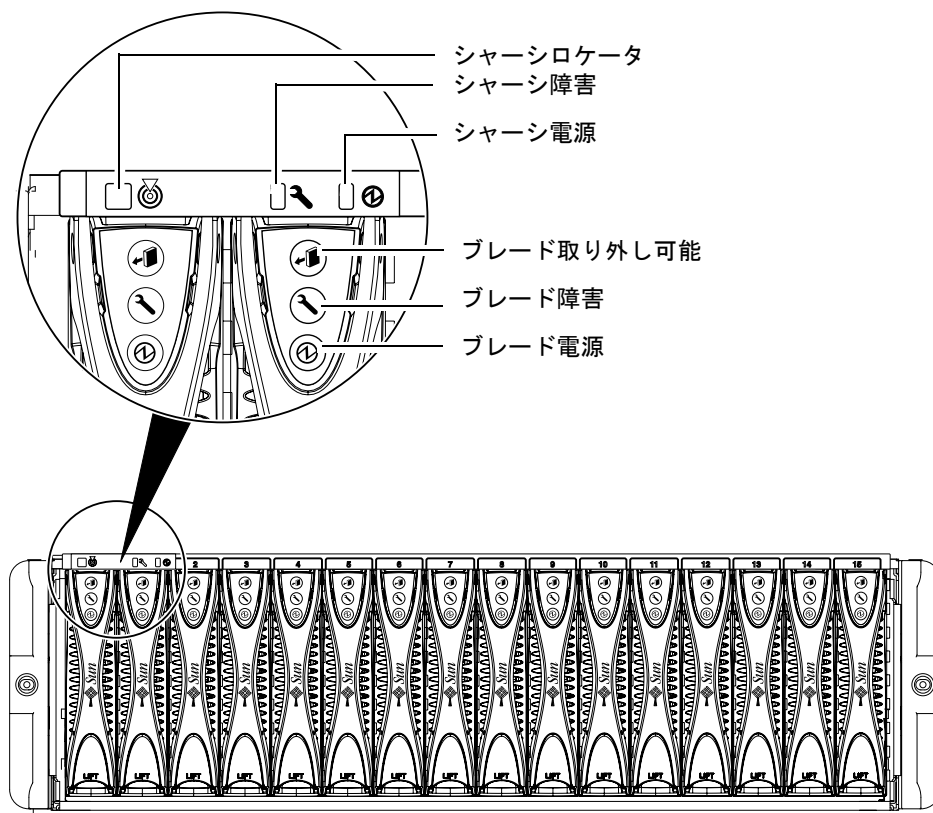


図 A-1 正面パネルの LED

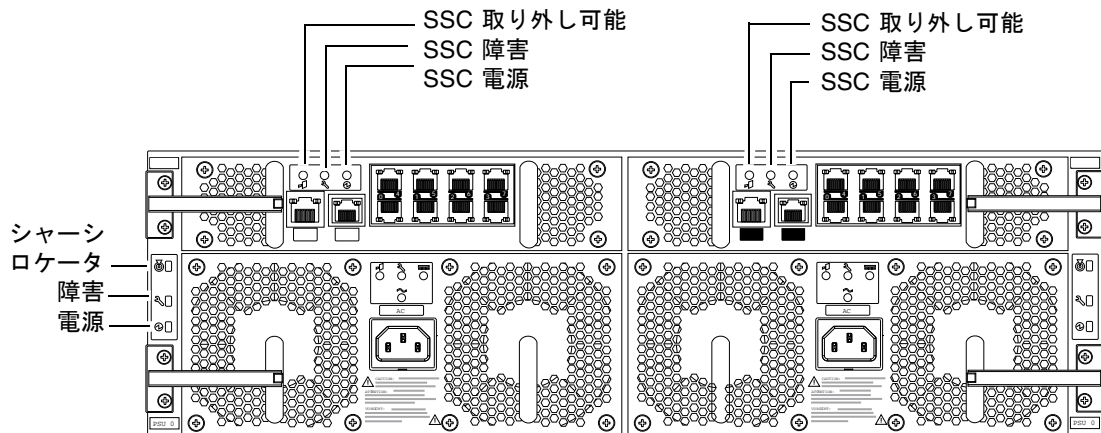


図 A-2 背面パネルの LED

表 A-1 SSC およびブレード、シャーシ、電源装置の状態コード







電源	障害	取り外し可能	意味	修正処置
 (緑色)	 (オレンジ色)	 (青色)		
消灯	消灯	消灯	コンポーネントは動作していません。障害状態は不明です。	シャーシの LED がすべて消灯している場合は、外部電源を確認します。特定のコンポーネントの LED がすべて消灯している場合は、そのコンポーネントに対して poweron コマンドを実行します。
消灯	点灯	消灯	コンポーネントは動作していません。障害が発生しています。	システムからコンポーネントを取り外すことはできません。
消灯	消灯	点灯	コンポーネントは取り外し可能です。障害は発生していません。	コンポーネントをシャーシから取り外します。
消灯	点灯	点灯	コンポーネントは取り外し可能です。	障害の発生したコンポーネントを取り外して交換します。
点灯	消灯	消灯	コンポーネントは正常に動作しています。	処置は必要ありません。

表 A-1 SSC およびブレード、シャーシ、電源装置の状態コード (続き)

電源	障害	取り外し 可能	意味	修正処置
 (緑色)	 (オレンジ色)	 (青色)		
点灯	点灯	消灯	コンポーネントは動作しています。障害が発生しています。	交換用のコンポーネントを購入するには、ご購入先に連絡してください。障害の発生したコンポーネントに対して <code>poweroff -r</code> または <code>removefru</code> コマンドを実行します。次に、コンポーネントを取り外します。
ゆっくり 点滅 (ブレード)	消灯	消灯	ブレードはスタンバイモードです。	処置を行う必要はありません。ブレードの電源を入れる場合は、 <code>poweron sn</code> と入力します (<i>n</i> はブレードの番号)。該当するブレードに <code>ok</code> プロンプトが表示されたら、 <code>boot</code> と入力してオペレーティングシステムを読み込みます。 <code>ok</code> プロンプトが表示されない場合は、表示されるまで待機します。 <code>ok</code> プロンプトまたは <code>Solaris</code> プロンプトに戻らない場合は、 <code>sc></code> プロンプトでブレードをリセットします。
点滅 (ブレード)	消灯	消灯	ブレードは起動中です。	処置は必要ありません。



注意 - PSU を取り外すと、シャーシの正面パネルおよび背面パネルの白色のロケータが点滅し始めます。この点滅は、PSU を取り外してから 10 分以内に新しい PSU を挿入するように警告しています。10 分以内に挿入しないと、シャーシ内のサーバーブレードが過熱する危険があります。新しい PSU を挿入すると、ロケータの点滅は停止します。

索引

B

break コマンド, 3-11

BSC, 4-7

C

console コマンド, 5-2

consolehistory コマンド, 5-5

E

Explorer, 11-5

F

flashupdate コマンド, 10-7, 10-10

L

LED, A-2

SSC 障害, A-3

SSC 電源, A-3

SSC 取り外し可能, A-3

障害 (シャーシの背面), A-3

障害 (ブレード), A-2

電源 (シャーシの背面), A-3

電源 (ブレード), A-2

取り外し可能 LED の点灯, 3-10

取り外し可能 (ブレード), A-2

ロケータ, 6-14

ロケータ (シャーシの背面), A-3

O

OpenBoot PROM, 10-11

P

poweroff コマンド, 3-3, 3-6, 3-9, 12-23

poweron コマンド, 3-2, 3-5, 3-8

R

removefru コマンド, 3-3, 3-7, 3-9, 12-9, 12-16

reset コマンド, 3-10

S

setfailover コマンド, 12-9

setupsc コマンド, 4-2

showdate コマンド, 6-4

showenvironment コマンド, 6-2, 6-7

showfailover コマンド, 10-10, 10-11

showfru コマンド, 6-2, 6-13

showlocator コマンド, 6-14

showlogs コマンド, 4-3, 4-4, 4-6

showplatform コマンド, 6-2

showsc コマンド, 4-3, 6-2, 6-3

SSC

新しいSSCの取り付け, 12-9, 12-12

安全に取り外すための準備, 3-7, 12-9

イベントレポート, 4-3

健全性の確認, 6-7

電源切断, 3-3, 3-6

電源停止によるスタンバイ電力への切り替え, 3-7

取り外し, 3-6, 12-9

日付および時刻, 6-4

リセット, 3-10

standbyfru コマンド, 3-3, 3-7, 3-9

Sun Explorer, 11-5

syslogd, 4-6

T

telnet

管理ネットワークからサーバーブレードへのアクセス, 5-6

TFTP, 10-2

TFTPサーバーの設定, 10-3

あ

アクセス、サーバーブレードコンソール, 5-2

アクセス、スイッチコンソール, 5-2

い

イベントレポート

イベントの解釈, 4-4

シリアルインタフェースでのオンまたはオフへの切り替え, 4-2

表示の制御, 4-5

お

オプションのハードウェアの交換, 12-1 ~ 12-29

こ

コンソール

ブレードまたはスイッチからの sc> プロンプトへの切り替え, 5-1, 5-7

コンポーネントの電源投入および電源切断, 3-1 ~ 3-11

さ

サーバーブレード

break コマンド, 3-11

OBPのアップグレード, 10-11

syslogd, 4-6

新しいブレードの起動, 12-8

新しいブレードの取り付け, 12-2

安全に取り外すための準備, 3-9

イベントレポート, 4-3, 4-4

起動時のコンソールの履歴, 5-4

コンソールから別のユーザーを強制的にログオフさせる, 5-2

コンソールの終了, 5-4

コンソールへのアクセス, 5-1, 5-2

電源切断, 3-9

電源停止によるスタンバイ電力への切り替え, 3-9

電源投入および電源切断, 3-7 ~ 3-10

動作中のコンソールの履歴, 5-5

取り付け, 12-6

取り外し, 12-2

取り外すための安全な停止, 12-2

ファームウェアのアップグレード, 10-9

読み取り専用でのコンソールへのアクセス, 5-3

リセット, 3-10

し

時刻の設定、SSC, 6-4

システムコントローラ

アクティブおよびスタンバイ, 1-2
最初のログイン, 2-2
時刻の設定, 6-4
デフォルトユーザー, 2-2
名前付きユーザーの削除, 2-6
名前付きユーザーの設定, 2-1 ~ 2-8
ファームウェアのアップグレード, 10-6
システムコントローラへのパスワードアクセス, 2-2
システムシャーシ
2 ポストラックからの取り外し, 12-26
4 ポストラックからの取り外し, 12-25
新しいシャーシの取り付け, 12-29
交換, 12-23
シャーシのコンポーネントの取り外し, 12-24
シリアル番号, 6-14
すべてのコンポーネントの停止, 12-23
ラックへの取り付け, 12-29
システムシャーシの監視, 4-1 ~ 4-7
シャーシのシリアル番号, 6-14
出荷時のデフォルト設定
SC をデフォルト設定に戻す方法, 1-3
障害 LED, 4-7
シャーシの正面, A-2
障害追跡, 11-1
サーバーブレード, 11-5
サンの技術者に提供する情報の収集, 11-3
シャーシ全体, 11-3
スイッチ, 11-4
問い合わせる前の確認事項, 11-2

す
スイッチ
起動時のコンソールの履歴, 5-5
コンソールから別のユーザーを強制的にログオフさせる, 5-3
コンソールの終了, 5-4
コンソールの履歴の表示, 5-4
コンソールへのアクセス, 5-1
スイッチコンソールへのアクセス, 5-2
動作中のコンソールの履歴, 5-6
ファームウェアのアップグレード, 10-15

リセット, 3-11

て

電源 LED

シャーシの正面, A-2

電源装置

新しい PSU の取り付け, 12-20

安全に取り外すために使用不可にする方法, 12-16

健全性の確認, 6-9, 6-10

取り付け, 12-16

取り外し, 12-17

と

動作中のコンソールの履歴, 5-5

取り外し、サーバーブレード, 12-2

取り外し可能 LED, 3-10

は

パスワード, 2-5

ふ

ファームウェアのアップグレード, 10-1 ~ 10-19

フィルターパネル

取り付け, 12-5, 12-6

引き出し用のくぼみ, 12-3

ブレードおよびフィルターパネルの必要総数, 12-6

ブレード

引き出し用のくぼみ, 12-3

ブレードおよびフィルターパネルの必要総数, 12-6

ブレードサポートチップ, 4-7, 10-2

ブレードの break コマンド, 3-11

ろ

ロケータ, 6-14

シャーシの正面, A-2